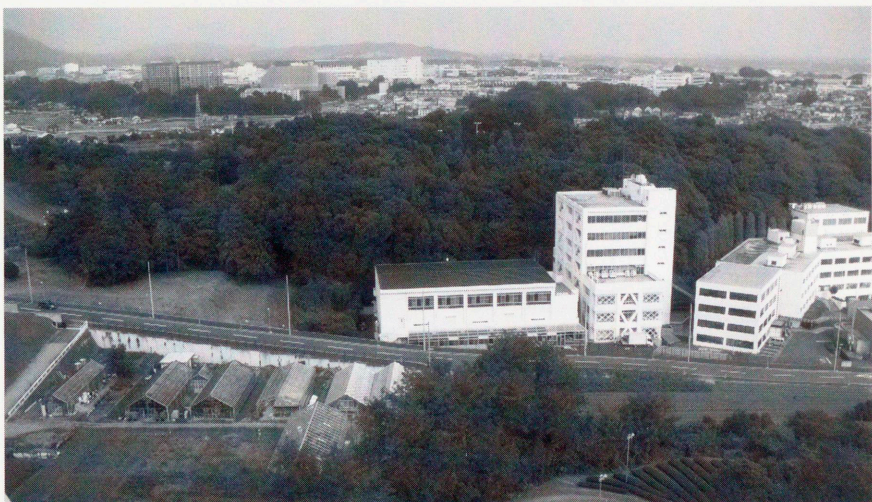


ふじみの



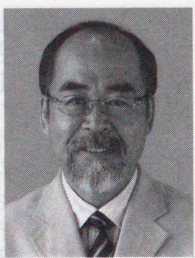
No.47

東京農大畜友会



巻頭言

畜産学科長 鈴木敏郎



畜友会の機関誌「ふじみの」は昭和三十六年四月に創刊して以来、本号で第四十七巻になります。「ふじみの」はこれまで多くの先輩諸氏が編集にたずさわり、畜産学科の歴史を綴ってきた学科にとって非常に重要な機関誌です。「ふじみの」は毎年二月に発行されますが、これは卒業生には学科の思い出として、新生には学科をより理解してもらうために、また、在学生には今後の指標を得るために読んでいただくためです。各自それぞれの読み方があるので、是非一読していただきたいと思えます。卒業生の皆さん卒業おめでとう。いよいよ四年間の学生生活に終止符を打って社会に羽ばたく時が来ましたね。大学の四年間は人生の内でも最も自由を満喫できた時期かもしれません。四年間の学生生活を振り返って見ると楽しかったこと、苦しかったことが走馬燈のように思い出されることと思います。社会に出ると、学生時代にはなかった厳しいことが待ち受けています。しかし、農大畜産学科で学んだこと、友人たちと一緒に過ごした時間がこれからの君たちの人生の糧になることは確かです。

東京農大畜産学科を卒業したことを誇りに思い、是非社会人として成長していただく。

新入生の皆さん入学おめでとう。今君たちは、希望に胸を膨らませて畜産学科に入学したと思います。しかし、授業のこと友人関係のことなど、新しい環境に不安なこともたくさんあるでしょう。君たちの先輩はそれに打ち勝ち、充実した学生生活を送っています。是非君たちも、畜産学科の学生として四年間、稔りのある学生生活を送って欲しいと思います。今、日本の畜産は、口蹄疫、鳥インフルエンザなど逆風にさらされています。しかし、その畜産をこれから支えていくのはまさに君たちです。畜産学科で多くのことを学んでください。そして、一日も早く大学生活に慣れ、畜産学科の一員として活躍されることを期待しています。畜産学科の全教職員も全力で君たちをサポートしていきます。

平成二十三年三月吉日

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長 柳原和馬



菜の花の香り漂い、小川の水もぬるみ、だいぶ春めいてきました。

昨年度は第119回体育祭にて、畜産学科統一本部として、諸先生方のご協力を頂き10年ぶりに総合優勝することができました。本年度も昨年度以上に畜産学科が活気溢れる年になると思います。

さて、本誌は畜産学科の先生方及び学生達の原稿、去年一年間の事業報告とともに記載しています。近年は、景気低迷による雇用環境の悪化を受け就職率は前年から大幅な減少を記録した中、学生一人一人が、今何をどう考えているか、個々に感じた「夢」、「希望」、「不安」が入り交じった学生の声が載せられています。

是非、隅々までご覧頂けたら幸いです。

ふじみの
目次

巻頭言

ふじみの発刊にあたり

畜産学科長 鈴木 敏郎 1
畜友会委員長 柳原 和馬 3

同窓会だより

同窓会会長あいさつ

畜産学科同窓会会長 渡邊 誠喜 6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会

便り
畜産振興会会長 半澤 恵 8

研究室だより

家畜繁殖学研究室
家畜飼養学研究室
畜産物利用学研究室
家畜育種学研究室
家畜生理学研究室
家畜衛生学研究室
畜産マネジメント研究室

27 24 21 18 16 13 10

ふじみの寄稿原稿(教員)

飛躍・変身の家畜―ウサギ年によせて―
一歩一歩
はじめまして
野村 こう 29
原 ひろみ 30
村田 亮 31

集う学友

あつという間の4年間
この一年
農大での出会い
大学1年生を振り返って
1年 下田 星美 35
2年 縫田 早希 34
3年 小林 美紀 33
4年 岡 優弥 32

畜友会だより

平成二十二年畜友会活動報告 36
平成二十一年度畜友会決算報告 37
平成二十一年度収穫祭特別会計収支決算報告 38
平成二十二年畜友会予算 39
平成二十二年収穫祭特別会計予算 40
平成二十二年畜友会役員 41
第十一回厚木キャンパス収穫祭
第一一九回体育祭事業報告及び結果報告 42
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則 50

第十一回厚木キャンパス収穫祭・
第一一九回体育祭各部門委員長より

僕なりの畜友会とは

統一本部委員長 3年 柳原 和馬 56

ぶつちぎり

特別企画委員長 3年 蛭川 友磨 57

我ら畜産学科統一本部宣伝隊!

宣伝隊長 3年 嶋田 翔太 58

「粋」畜産の顔:神輿

神輿隊長 3年 福田 庄司 59

私を支えてくれてくれた皆さんへ

体育祭委員長 3年 鈴木 麻琴 60

こだわりの櫓

櫓装飾委員長 3年 邑上沙瑠子 61

装飾という部門〜猪牛蝶大根!〜

装飾委員長 3年 菊地 忍 62

新家畜苑

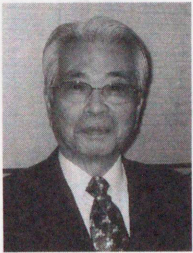
家畜苑委員長 3年 畠山 正太 63

編集後記

編集委員長 3年 菊地 忍 64



同窓会だより



同窓会 会長挨拶

畜産学科同窓会

会長 渡邊 誠喜

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは学部四年間、または大学院二年間あるいは五年間、この東京農業大学厚木キャンパスにて勉学に勤しまれ、講義に、実験実習に、そしてクラブ活動に精励され、多くの友人を得られ、人格豊かな立派な畜産技術者として本日、目出度く農学士、農学修士あるいは農学博士の学位を取得されました。同窓生を代表して衷心よりお慶びを申し上げます。また、待ち焦がれておられたご父母の皆様にも心から祝意を表したいと思えます。

畜産学科は昭和二十二年四月に専門部畜産科として千葉県茂原市に設置され、昭和二十四年に新制大学令により農学部畜産学科となり、昭和三十四年から三十六年にかけて世界的な環境・気候の急変により穀物の生産量は激減し、各国は自国の食糧防衛のため輸出を抑え、また、経済力にまかせて世界の穀物を買いたさるなどにより国際的に食糧や飼料資源不足が懸念されるようになりました。一方、環太平洋パートナーシップ（TPP）の締結も避けて通れない世界情勢であります。TPP締結により当然のことながら、日本の農業は再生・発展どころか日本農業の壊滅が危惧されることでもあります。我が国の農業再生には補助政策のみならず、農業自身に力を付与・活性化しありません。それがためには、遊休地・休耕田畑を活用した日本ならではの高品質の農畜産物を生産し、食糧自給はもとより食糧輸出という攻めの農業施策を忘れてはならない、と思えます。

グローバルに申し上げると、今や地球上では環境・気候の急変により穀物の生産量は激減し、各国は自国の食糧防衛のため輸出を抑え、また、経済力にまかせて世界の穀物を買いたさるなどにより国際的に食糧や飼料資源不足が懸念されるようになりました。一方、環太平洋パートナーシップ（TPP）の締結も避けて通れない世界情勢であります。TPP締結により当然のことながら、日本の農業は再生・発展どころか日本農業の壊滅が危惧されることでもあります。我が国の農業再生には補助政策のみならず、農業自身に力を付与・活性化しありません。それがためには、遊休地・休耕田畑を活用した日本ならではの高品質の農畜産物を生産し、食糧自給はもとより食糧輸出という攻めの農業施策を忘れてはならない、と思えます。

卒業生諸君には厳しい社会情勢ではありますが、諸君の活躍の場は必ずあります。東京農業大学で培った学術・技術と農大スピリットをもって世のため、人のために活躍されることを祈念いたします。

新入生諸君は今後、長い伝統の中で培われてきた農大精神を身につけ、文武両道を旨として勉学とクラブ活動など

田谷キャンパスへ、そして再度平成十年から十二年にかけて厚木キャンパスへ移転し、一昨年度、創設六十周年を迎えました。大学院は昭和六十一年四月に農学研究科に畜産学専攻修士課程として、平成二年に博士後期課程として増設されました。この間、学部卒業生は八千名を超え、また多くの大学院修了者を世に送り出し、国の内外で畜産学・業界並びに関連産業界の中核となって華々しく活躍されております。

本同窓会は昭和六十三年に学科創設四十周年を記念して、会員相互の親睦と情報交換の場を提供することを第一義とし、併せて学生教育への援助を目的として設立されたものであります。平成二十一年秋に学科と同窓会の共催のもと学科創設六十周年記念式典を執り行い、約三百五十名の卒業生が全国から参集されました。また、学科の要望によりモニUMENTを寄贈いたしました。このモニUMENTは手違いがあり未だ建立されておりましたが、近いうちに厚木キャンパス本部棟前に姿を見せるものと思っております。

新入生のみなさん、皆さんは多くの大学農学部がある中、この伝統ある東京農業大学畜産学科を選択、見事合格・ご入学されたこと心からお喜び申し上げます。大いに歓迎いたします。数ある大学農学部の中で畜産学科という名称は本学が唯一となつてまいりました。申すまでもなく農学は農・林・水・畜産業に関わる学問のみならず、環境・栄養など人間を取り巻く諸問題を解決するための生物のあらゆる可

に精励され、生涯の友となる素晴らしい友人と良き恩師を見つけ楽しい大学生活を勝ち取ってもらいたい。そして、創意・工夫と自省を念頭に、常に思慮・分別を弁え、挑戦することを拒否せず、自己PR力を養うことにも心を配ってほしい、と思えます。そして、四年後には農大畜産学科に在籍していた、という証を示せるよう証つくり心掛けてください。

卒業生並びに新入生のご健闘を祈り、同窓会長の挨拶といたします。

畜産振興会



東京農業大学畜産振興会 便り

東京農業大学畜産振興会

会長 半澤 恵

東京農業大学畜産振興会が発足して、早十九年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。そこで本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介いたします。

本会は東京農業大学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・研究の向上に資するため、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。会の運営には学内外から本会の役員として理事、監事が選任され、理事会で必要事項が審議決定され、運営にあたっています。一方、役員以外の評議員によって評議員会を組織し、理事会での審議・決定内容について承認を得ることになっています。

として設立されましたが、その後、逐次拡大してきた事業を遂行するため、

- 一 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金
- 二 賛助会員会費
- 三 一般寄付金

などを資産に加え賄われています。より一層の充実した事業展開のためには更なる原資が必要です。

卒業生には本会の趣旨をご理解いただき、後輩学生の育成のため是非ご支援を賜りたくお願いいたします。特に本会から表彰を受けた方々は本会の活動を心に留めおいて下さい。

在学生諸君には本会の目的に叶う事象が生じた場合には本会を活用され、充実した学生生活を送られるよう祈念し、振興会便りとします。

具体的な事業内容として、奨学生を毎年二、四年次生の各学年から一名ずつ計三名、延べ六十一名採用、優秀卒業論文賞を毎年一名、計十九名に授与、姉妹校留學生並びに渡米農業実習生への交通費の一部を過去二名に支給、さらに関連学会誌に学術論文を掲載・発表した学生、または学会で口頭発表した学生、延べ二百十余名を表彰しています。また、経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行っています。

平成九年四月にここ厚木キャンパスが開学し、畜産学科が移転しましたが、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十期の学科学学生ならびに第八期の博士前期課程大学院生、第五期の博士課程後期大学院生が卒業します。移転から二年間は、教員が世田谷キャンパスにあり、厚木キャンパスは学生のみという状態でした。そこで本会では、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌一頭、雄一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜は目下、本学富士畜産農場に繋養されており、黒毛和牛は優秀な二世も誕生するなど、それぞれ実習・実験の材料として活用されています。

また、これら諸事業の成果を取り纏めたものを平成十年より毎年振興会会誌として発行しており、こちらも本年度で十四号を数えるまでになります。

本会設立の契機は平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君(当時畜産学科二年在学中)のご両親から寄付を賜った原資を基金

研究室だより

家畜繁殖学研究室

私たちが家畜繁殖学研究室は、門司恭典教授をはじめ、桑山岳人教授、岩田尚孝准教授のご指導のもと、大学院生6名4年生33名、3年生33名で構成され、日々の研究に取り組んでいます。

当研究室では、家畜（ウシ、ブタ、ニワトリ、ウズラ）から野生動物にいたる生殖生理のメカニズムを追究し、繁殖効率の改善に取り組んでいます。具体的には、生殖に関わる内分泌機構の解明、動物胚の生産や操作、細胞、精子、卵子および受精卵の保存、人工授精、受精卵移植の繁殖技術の確立をめざしています。3年生は、生殖学の基礎的な知識、実験方法を身に付けると共に大学院生や4年生の研究活動を補助しながら興味のある研究分野を検討し研究テーマを決定します。また国内外の学会にも積極的に参加し、その成果を論文として関連学会に発表しています。

研究室の主な年間行事は、新入室員歓迎会（4月）、論文発表会（年数回）、収穫祭の文化芸術展での研究発表、スポーツ大会（年2回）、研修旅行、卒業生送別会等があります。これら楽しい行事と研究を両立しながら各々が自身自身の目標に向かって努力を重ね、充実した研究室生活を送っています。

平成二十二年度卒業論文題目

氏名 論文題目 指導教員

浅沼 悠 ブタ卵子の体外成熟培地中に含まれるアミノ酸が卵子直径の変化に及ぼす影響 桑山

荒木 美香 ウシ卵子の体外受精培地へのツニカマイシンの添加がY染色体を有した精子の透過明帯接着性に及ぼす影響 岩田

飯村 太一 ニワトリの人工授精時におけるメチルアセトアミドの受精阻害作用について 岩田

伊藤美和子 ウシ前胞状卵子の培養時間と核内染色体の配置との関係について 桑山

遠藤 美和 ウシ初期胞状卵子の培養時間と発育能力の関係について 桑山

大熊有木子 ACTHがウズラ精巢細胞のテストステロン産生に及ぼす影響 桑山

大村麻奈美 ウシ発情周期中における卵管の精子貯蔵能および含有されるプロジェステロン濃度の変化 岩田

小川久美子 温度条件がアフリカツマメガエルの初期発生に及ぼす影響 岩田

小野 泰弘 ブタ卵子の体外成熟培地に含まれるグルコース濃度が卵子直径に及ぼす影響 岩田

川井 隆二 ブタ精液液状保存液へのラフィノース添加が精液性状に及ぼす影響 門司

川崎 奨平 岐阜地鶏のBrood Patch形成と胸部皮下体温との関係 桑山

小林亜理紗 コルチコステロンがウズラ精巢細胞のテストステロン産生に及ぼす影響 桑山

塩沢 一水 ブタ精液液状保存温度がブタ精子にATP含量に及ぼす影響 門司

島袋 博輝 ブタ卵子の体外成熟培地に含まれるアミノ酸が卵子のATP含量に及ぼす影響 岩田

高橋 輝 体外培養されたウシ卵管上皮細胞に占める絨毛細胞の割合に関する研究 岩田

高橋 美都 体外成熟培地に含まれるアミノ酸がブタ卵子の発生能力に及ぼす影響 岩田

岩田

桑山

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

岩田

三宅 美夏	エネルギー基質がウシ卵子の体外発育に及ぼす影響	岩田 桑山
武笠 成美	ブタ精液液状保存温度がブタ精子のミトコンドリア活性に及ぼす影響	門司 岩田
矢田 桃子	ウシの月齢が前胞状卵胞卵子の体外発育に及ぼす影響	岩田 桑山
山崎 祥子	ウシ初期胞状卵胞卵子の体外発育が卵子のミトコンドリア数に及ぼす影響	岩田 桑山
吉岡 慎介	ウシ凍結融解精子の前培養処理がY染色体を有した精子の透明帯接着性に及ぼす影響	門司 岩田
新井 彩貴	ブタ前胞状卵胞由来卵子の体外発育と核内染色体の配置について	岩田 桑山
佐藤 龍郎	体外成熟培地への含まれるアミノ酸添加がブタ卵子のミトコンドリア含量に及ぼす影響	岩田 桑山
宍戸 怜輔	卵管上皮細胞との共培養がブタ精子性状に及ぼす影響	門司 岩田
伊藤 匠	ウシ精子のテストステロン処理がY染色体を有した精子の透明帯接着性に及ぼす影響	門司 岩田

家畜飼養学研究室

本研究室は牛・豚・鶏・兎が快適に生活し、さらに各家畜・家禽から乳・肉・卵などの動物性生産物を効率よく作り出していくために、どのような飼料(飼料学)を、どれくらい(家畜栄養学)、どうやって与えるか(家畜管理学)を、常に追究しています。さらに飼料の最終形態である糞尿が環境に及ぼす影響について総合的に(家畜飼養学)研究を行っています。

各研究は祐森誠司教授、池田周平教授、黒澤亮助教の指導のもと大学院生と共に進めており、成果は日本畜産学会、日本養豚学会、日本家畜管理学会、日本畜産環境学会、日本ペット栄養学会等の学会大会に毎年発表されています。研究室の活動は、春の新室員歓迎会と富士農場での専攻実習に始まり、飼料成分分析実験、インターンシップとしての夏の家畜管理実習、秋の収穫祭への参加(模擬店・コロコロ焼き、文化芸術展・二〇一〇年度 ラビットブル☆翼を授ける)ウサギの跳躍)、食と農の博物館にても展示)、冬の畜産関連諸施設(栃木県酪農試験場)の見学を兼ねた研修旅行、卒業論文発表会、卒業生さよならパーティー、年二回の大掃除に納会と盛り沢山です。この様な活動を通して室員の意思の疎通を図るとともに団結を深めています。先生方の指導は時に厳しいこともありますが、学生の相談には親密に添えてくださり、厳しさの中にもやさしさを感じます。室員は皆仲良く、研究室での時間を楽しく過ごしています。

平成二十二年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導員
青木 響子	血中量を指標とした肉用子牛へのL・カルニチン給与量の検討	祐 藤 森
今村 仁	寒冷下で飼育するラットへのL・カルニチンおよび脂肪酸カルシウムの同時給与が成長に及ぼす影響	祐 藤 森
梅窪 太郎	甘藷主体の茶屑配合飼料がMR(交雑)豚の肉質に及ぼす影響	池 田 祐 森
梅原 淑恵	食糞行動を阻止したダッチ種幼兎のメチオニン、トレオニンの要求量推定	池 田 祐 森
大石 将史	孵化後の絶食と飼料給与における卵黄嚢消失と初期成長の関係	池 田 祐 森
太田 雅人	泌乳牛のL・カルニチン出納について	池 田 祐 森
大竹 悠喜	黒毛和種牛による授乳・吸乳行動の検討	池 田 祐 森
奥村 紋子	NaOH処理Earth worm proteinの消化性評価	池 田 祐 森

金井 祥子 茶屑の添加がサイレージの二次発酵に及ぼす影響 池田 佐藤

金井塚彩香 昆虫等の飼料資源化の検討、一般成分について 池田 森

坂元 春菜 盲腸切除ラットへの酪酸給与が成長に及ぼす影響 池田 森

佐々木裕哉 牛用精子保存液へのL・カルニチン添加が精子活力に及ぼす影響 池田 野口

沢登 竜輔 糖蜜処理茶屑を添加したサイレージの嗜好性に関する研究 池田 佐藤

篠原 隆二 牛糞へのアフピリン噴霧が衛生害虫の飛来に及ぼす影響 池田 野口

鈴木 翠 子豚用飼料へのセロオリゴ糖添加が一般成分の消化に及ぼす影響 池田 祐森

須田 建 子豚用飼料へのセロオリゴ糖添加が成長と血中成分に及ぼす影響 池田 祐森

関口 晴己 発育成績を指標とした肉用子牛へのL・カルニチン給与量の検討 池田 祐森

宮川満里子 豚用精子保存液へのL・カルニチン添加が精子活力に及ぼす影響 池田 野口

宮原 貴哉 唐辛子が非給温下におけるプロイラーの初期成長に与える影響 池田 黒澤

森本 剛司 肉用種雄牛の血統と血中カルニチン含量の関係 池田 祐森

北澤 克哲 寒冷環境下の子豚へのL・カルニチンと脂肪酸カルシウムの同時給与が血中カルニチン、脂質濃度に及ぼす影響 池田 祐森

佐藤 智子 ホルスタイン種雄牛の血統と血中L・カルニチン含量の関係 池田 祐森

島山 満正 異なる量のL・カルニチン給与が子牛の成長及び血中L・カルニチン濃度に及ぼす影響 池田 祐森

高取 大竜 乳用子牛のL・カルニチン出納について 池田 佐藤

武内 良裕 繁殖雌豚の経済的延命に対するL・カルニチンの給与効果 池田 祐森

成沢 和昭 寒冷環境下の子豚へのL・カルニチンと脂肪酸カルシウムの同時給与が成長に及ぼす影響 池田 祐森

西村聡一郎 食糞行動を阻止した日本白色種幼兔のメチオニン、トレオニンの要求量推定 池田 祐森

新田 純 甘藷主体の茶屑配合飼料がMB(交雑)豚の成長と消化性に及ぼす影響 池田 祐森

橋本さとみ 食糞行動を阻止したダッチ種成兔のメチオニン、トレオニンの要求量推定 池田 祐森

服部 由佳 プロイラー雛の熱発生量における卵黄囊消失と飼料摂取の関係 池田 黒澤

藤田美沙子 黒毛和種の乳成分分析 池田 祐森

増子 浩伸 牛体へのアフピリン噴霧が衛生害虫の平飛来に及ぼす影響 池田 野口

畜産物利用学研究室

本研究室は室長の鈴木敏郎教授をはじめ、多田耕太郎准教授のご指導のもと、大学院生2名、大学4年次生32名、3年次生36名で構成される室員が、それぞれ活発に日々の研究活動などに取り組んでいます。

具体的には、乳・肉に含まれる各成分の物理・化学的特質ならびに栄養・生理学的機能特性を品種・個体・分子レベルで追究したり、その研究成果を食品成分の機能性・保存性の改良、製品製造工程の改良や新しい加工法の開発などに応用するための研究を行なったりしています。

年間の主な活動としては、週一回行われるゼミナールの他、世田谷キャンパスで行う乳酸飲料製造実習、ハム・ペーコン等の製造と収穫祭での販売、卒業論文発表会、新入生歓迎会、前・後期納会、研修旅行、卒業生送別会などがあります。

平成二十二年度卒業論文題目

氏名

論文題目

指導
教員

笠原 翔 超高压処理による畜肉タンパク質の加圧
深津 佳祐 ゲル形成に関する研究
溝井つかさ 超高压処理が卵黄・卵白のゲル形成に与える影響に関する研究

矢代 佑一 植物性乳酸菌を用いた豆乳ヨーグルトの
渡辺 理央 開発に関する研究

越前 彬 機能性成分を生産する乳酸菌を用いた畜
小長井 瞳 産加工品の開発に関する研究

石田 達朗 生ハム熟成中のアミノ酸組成に関する研
緑川 峻太 究

久野 慎平 乳製品に含まれるトランス脂肪酸含量に
前畑 雄大 関する研究

菅島 昂志 エミューの肉質に関する研究

大迫 孝圭 エミューの内臓肉に関する研究
川瀬 浩文

森田 修字 超高压処理を用いた新規畜肉製品の開発
に関する研究

清水 健人 超高压処理を用いた食肉の殺菌に関する
寺田 夏樹 研究

鈴江 理奈 鶏骨エキスの抽出残渣の理化学的性状に
吉田 武史 関する研究

丹重 優人 鶏骨エキス抽出残渣を利用した食品の開
永井 新 発に関する研究

浅野 真央 オカラを用いた食物繊維含有ソーセージ
山下亜希子 の開発に関する研究

大橋 寛児 畜産物を用いた肉醬の開発に関する研究
高橋 遼

村山真佐夫 豚心臓を用いた肉かまぼこの開発に関す
新井 泰祐 る研究

生田 結花 混合乳酸菌を用いたヨーグルトの開発に
石川真之助 関する研究

土谷 良 混合乳酸菌を用いた豆乳ヨーグルトの開
真鍋 和也 発に関する研究

家畜育種学研究室

平成二十二年度卒業論文題目

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる育種学、遺伝学や分子生物学的視点から広範な研究活動が実施されています。

当研究室では、花田博文教授をはじめ、野村こう講師、高橋幸水助教の指導の下、大学院生5名、4年生36名、3年生33名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては家畜（ウシ・ヤギ・スイギュウ）、家禽（ニワトリ）を供試動物として、細胞遺伝学的研究、血液蛋白型支配遺伝子情報・マイクロサテライトマーカー・ミトコンドリアDNA 遺伝子情報による系統遺伝学的研究、品種分化に関する研究などが行われています。研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われているゼミ、定例委員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとどまらず、先生方や院生により学会発表などが精力的に行われています。

氏名 論文題目 指導

青木 純一 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくウシの系統遺伝学的研究
―特にインドネシア産牛について― 高橋 花田

安齋 雄太 ミトコンドリアDNA情報に基づくブタ
の系統遺伝学的研究
―特にバングラデシュ在来豚について― 野村 花田

伊藤 久雄 体細胞クローン牛及びその後代の遺伝的
正常性の解析 花田 花田

稲垣 駿 マイクロサテライトDNA多型情報を用
いた家畜ヤギの系統遺伝学的研究 野村 花田

岩瀬 理佐 スイギュウ血清トランスフェリン遺伝子
の多型解析 高橋 花田

植松 恵久 マイクロサテライトDNA多型情報を用
いた家畜ヤギの系統遺伝学的研究 野村 花田

海野 あえ スイギュウ血清トランスフェリン遺伝子
の多型解析 高橋 花田

倉崎 友花 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくブタの系統遺伝学的研究
―特にバングラデシュ在来豚について― 野村 花田

倉島あおぞら ミトコンドリアDNA情報に基づくヤギ
の系統遺伝学的研究 野村 花田

駒形保美加 体細胞クローン牛及びその後代の遺伝的
正常性の解析 花田 花田

佐川 綾音 ヤギメラトニン受容体遺伝子の多型解析 野村 花田

千郷 華恵 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型
解析 高橋 花田

添田 拓也 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくウシの系統遺伝学的研究
―特に東アジア在来牛について― 高橋 花田

中町悠太郎 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくスイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 花田

南里 修平 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくスイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 花田

大島 沙織 ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究 野村 花田
大島 朋和 ヤギの被毛形質に関する遺伝学的研究 野村 花田
大隅 翔 ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究 野村 花田
太田 将仁 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくウシの系統遺伝学的研究
―特に東アジア在来牛について― 高橋 花田
大谷 敬直 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくスイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 花田
大場美貴子 頭蓋骨画像情報解析によるヤギの品種分
化に関する研究 高橋 花田
唐戸 俊輔 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型
解析 高橋 花田
川田 学 ミトコンドリアDNA情報に基づくヤギ
の系統遺伝学的研究 野村 花田
朽木 暁美 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくブタの系統遺伝学的研究
―特にベトナム在来豚について― 野村 花田

大島 沙織 ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究 野村 花田
大島 朋和 ヤギの被毛形質に関する遺伝学的研究 野村 花田
大隅 翔 ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究 野村 花田
太田 将仁 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくウシの系統遺伝学的研究
―特に東アジア在来牛について― 高橋 花田
大谷 敬直 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくスイギュウの系統遺伝学的研究 高橋 花田
大場美貴子 頭蓋骨画像情報解析によるヤギの品種分
化に関する研究 高橋 花田
唐戸 俊輔 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型
解析 高橋 花田
川田 学 ミトコンドリアDNA情報に基づくヤギ
の系統遺伝学的研究 野村 花田
朽木 暁美 マイクロサテライトDNA多型情報に基
づくブタの系統遺伝学的研究
―特にベトナム在来豚について― 野村 花田

橋本 宇宙	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	花野 村
畠山 晃一	ヤギの被毛形質に関する遺伝学的研究	花野 村
原田 美咲	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	花野 村
細井 麻衣	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	花野 村
細田 杏子	頭蓋骨画像情報解析によるニワトリの品種分化に関する研究	花高 橋
丸田 弘憲	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究 —特に東アジア在来牛について—	花高 橋
山口 哲也	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	花野 村
吉田 紋子	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	花高 橋
久木田美幸	ヤギの周年繁殖関連遺伝子に関する研究	花野 村

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、吉田豊講師、原ひろみ講師のご指導のもと、大学院生4名、学部四年次生35名、学部三年次生30名、研究生1名で構成されています。

本研究室では、家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしており、①ウマに関する研究、②ニホンウズラ・ニワトリに関する研究、③ウシに関する研究に大きく分けられます。

①においては、コンディションの変化による血液性状の変動、赤血球膜タンパク質の遺伝子に関する研究などを行っています。②においては、抗原に対する抗体産生能・アポトーシス・モノクローナル抗体といった免疫の基礎となる研究、主要組織適合遺伝子複合体(MHC)の分子遺伝学的・免疫学的解析、TLR 遺伝子の解析、HSP70、90 遺伝子の解析、腸内細菌と血液性状の関連解析、および不死化細胞の染色体解析などを行っています。③においては、ビタミンA代謝における諸所の現象に関する研究を行っています。

本研究室における日々の活動を紹介しますと、三年次には生理学に関する基礎的な実験の技術を身につけるために講義・ゼミ・実験実習を行うとともに、実験動物の飼育管理、院生・学部四年生の卒業論文の補助として協力しています。四年次には前述の研究のほか各個人が興味を持ったテーマを先生方との協議により決定し、卒業論文研究を行っています。

辻 良太	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくブタの系統遺伝学的研究 —特にベトナム在来豚について—	花野 村
秋山 悠	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析	花野 村
品田 哲平	マイクロサテライトDNA多型情報に基づくウシの系統遺伝学的研究 —特にバングラデシユ産牛について—	花高 橋

ます。院生は、自分の学位論文のテーマに対して日夜研究に精励し、その結果を学会などに発表しています。

年間の主な行事として、新入生歓迎会、収穫祭文化学術展・模擬店、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、年二回の納会、実験動物家畜舎大掃除、週一回のゼミナール等があります。

なお、平成二十二年度の卒業論文題目は以下のとおりです。

平成二十二年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導 教員
荒瀬 太史	ニホンウズラB系の血液性状の測定	半澤 原
飯島 祐太	ニホンウズラM ₂ 遺伝子の構造解析	半澤 原
飯塚 淳次	ニホンウズラBTN2遺伝子周辺の構造解析	半澤 原
井川 彰子	ニホンウズラNK-Tyrosine 遺伝子の各種臓器におけるmRNA発現と個体間比較	半澤 原
内野 晃	ニホンウズラ肝由来上皮系由来不死化細胞株(QHEC3) Glucagon 応答性の解析	半澤 原

太田 真奈 ニホンウズライ系の血液性状の測定 半 澤 原

小川 真 ビタミンAが子牛の血中甲状腺ホルモ
ンに与える影響 半 澤 吉 田

梶畑 莉沙 ダチョウ (Struthiocamelus:Sc) HSP70
遺伝子 (SchSPA2) の塩基配列の解析 半 澤

金子 忠晶 ニホンウズラ幼雛の各種臓器における
TLR2の免疫組織染色による発現解析 原 半 澤

菊地 豪 ウマ赤血球分化/成熟段階における
GATA-1および-2遺伝子の mRNA 発現
解析 原 半 澤

北島 健史 ニホンウズラA系における腸内細菌叢の
解析 原 半 澤

木村 貴範 ニホンウズラB系における腸内細菌叢の
解析 原 半 澤

蔵居 悠 ニホンウズラY系における腸内細菌叢の
解析 原 半 澤

栗田 広輝 ニホンウズラ HSP90 遺 伝 子
(CjHSP90AA1) の ORF における多型
解析 原 半 澤

西山 浩貴 ウズラ偽好酸球からのβデフェンシンの
精製およびその抗菌活性 原 半 澤

古門 昭俊 ニホンウズラ CjHSP90AA1 の intron の
多型解析 原 半 澤

古川 千明 ニホンウズラの系統間における ODF3 半 澤
遺伝子座 (CjODF3) の遺伝子座数多
型 (CNV) 解析

細川 智史 ニホンウズラ MHC クラス I、クラス II 半 澤
間の組み換えスポットの検索

前田 貴久 競技馬の運動内容および状態別における 半 澤
赤血球浸透圧脆弱性と血液性状の年間変
動

宮川比呂志 ニホンウズラ IgG, IgM および IgA の定 半 澤
量 原

横山 佳菜 ニホンウズラ CDI 遺伝子座の多型解析 半 澤

若山 理沙 ニホンウズラ幼雛の各種臓器における 半 澤
TLR4の免疫組織染色による発現解析 原

福澤 元子 メンヨウに発現する SOD1 および 半 澤
SOD2 の ORF の多型解析

今野 峻之 ウズラ肝由来上皮細胞株 (QHECs) の 半 澤 原
産生・分泌物質の検索

斎藤 友美 甲状腺ホルモンが子牛の血中ビタミンA
に与える影響 半 澤 吉 田

坂井 祐太 ニホンウズラA系の血液性状の測定 原 半 澤

鮫島 弘継 ウズラY, AおよびB系の補体力価の比 半 澤
較 原

下山 拓哉 抗ニホンウズラTLR15抗体作製および 半 澤
各種臓器の免疫組織染色解析 原

高橋 雅人 ニホンウズラ CjHSP90AA1 の スプライ 半 澤
スバリアント解析

辻 克己 ニホンウズラ TLR15 の多型解析 原 半 澤

内藤 悠太 ニホンウズラ HSP70 遺伝子 (CjHSPA2) 半 澤
の 3' UTR の多型解析

長縄 光代 ニホンウズラ CjHSP90AA1 遺伝子 半 澤
(CjHSP90 α) の exon1 および intron1
の多型解析

家畜衛生学研究室は、室長の村上覚史教授をはじめ、山本孝史教授、村田亮助教のご指導の下、大学院生三名、四年生三十五名、三年生三十四名で構成されています。

室員は各自で希望する対象動物別に、実験動物班、牛班、豚班、鶏班の四班に分かれ、日々の動物たちの世話等も通しながら、各家畜・家禽の疾病とそれに対する診断、予防法及び環境衛生等の研究を行っています。

家畜衛生は、家畜・家禽の生命を脅かす健康阻害因子除去し、生命の延長をはかり、且つ生産性の向上をはかることを目的とされてきましたが、最近では「動物の福祉」という観点から、家畜伴侶動物（コンパニオンアニマル）の衛生管理法等、家畜や家禽以外動物もその対象となつてきています。

研究室の主な行事として、新入生歓迎会、研修旅行、収穫祭では模擬店で「しし汁」を出店し、文化芸術展にも出店、年末には餅つき、慰霊祭、その他月に二回の定例会や年に二回の納会等があり、これらの行事を通して室員は団結を深め、各々が目的意識を持って有意義な研究室及び研究室活動を行っています。

なお、平成二十二年度の卒業論文の題目は次の通りです。

氏名 論文題目 指導員

饗場 智宏 イヌの口腔内に分布するマイコプラズマについて 山本

相原亜希子 廃用牛の肝臓、脾臓および腸間膜リンパ節からのグラム陽性菌の分離 村上

青木 愛美 乳牛の消化管における寄生虫調査 村上

伊原 明佳 羊の口腔から分離されたムチン非要求性マイコプラズマの血清学的性状 山本

今井小百合 畜舎飼育している空中環境のカビ 村上

上原 琢磨 *Actinobacillus pleuropneumoniae* のチアンフェニコールに対する *in vitro* 耐性値上昇試験 山本

遠藤英沙子 廃用牛の肝臓、脾臓および腸間膜リンパ節からのグラム陰性菌の分離 村上

大木 翔太 モルモットにおける *Arcanobacterium abortus* の病原性について 村上

鈴木千翔子 肉用豚の発育段階におけるグラム陽性菌の bacterial translocation 調査 村上

高桑 倫子 近年わが国の豚から分離されたサルモネラの薬剤感受性 山本

高山 沙恵 暑熱対策用ペットボトル解氷水による母豚の生理値とその効果 村上

竹内 惇 イヌの皮膚から分離されたグラム陽性菌の各種性状 山本

千葉由紀子 身近に飼われている綿山羊の内部寄生虫調査 村上

坪井 直之 豚回虫卵に対する各種消毒薬の殺卵効果 村上

中矢さとみ 富士農場におけるトリのサルモネラ実態調査 山本

那須 裕一 ペットフードの真菌汚染状況の調査 村上

根本 静 マウスにおける *Arcanobacterium abortus* の病原性について 村上

金子 明宏 *Actinobacillus pleuropneumoniae* のオキシテトラサイクリンに対する *in vitro* 耐性値上昇試験 山本

上釜 安貴 肥育豚の扁桃における *Streptococcus* 属菌保有調査 村上

菊池 恵美 イヌ由来マイコプラズマ基準株の血清学的性状 山本

北浦かおり 肉用豚の発育段階における bacterial translocation 調査に伴った腸管グラム陰性菌の推移 村上

工藤 雄平 一大規模養豚場におけるペットボトル解氷水を用いた暑熱対策 村上

黒野 祥子 *Actinobacillus pleuropneumoniae* のアミノペンシリンペニシリンに対する *in vitro* 耐性値上昇試験 山本

越湖 彩 ホロホロチョウにおけるニューカッスル病ワクチンの効果 村上

佐藤 晴香 調査農場の飼養衛生管理状況と発育段階における豚の bacterial translocation 村上

橋本真倫子 消毒薬のカビ発育形態におよぼす影響 村上高鳥

播磨 智士 ハーブの一般細菌に対する殺菌効果 村上田

本間 文菜 健康豚由来大腸菌のO群血清型別 山本

松本 健吾 ヒツジの皮膚から分離されたグラム陽性菌の各種性状 山本

宮林 忠生 クロコキブリの保有菌調査とコロリ剤有効性の評価 村田

森岡 怜 ヒツジの口腔から分離されたムチン要求性マイコプラズマの血清学的性状 山本

森田 美保 暑熱対策用ベクトルボトル解氷水による母豚の繁殖成績 村上

渡辺 江美 イヌの口腔内細菌の動態について 山本

岡田絵里加 肉用豚の発育段階におけるグラム陰性菌のBacterial translocation 調査 村上

松井 英美 Arcanobacterium abortusius 感染実験にとりもなう細菌類の病理組織学的変化 村上

畜産マネジメント研究室

畜産マネジメント研究室は小栗克之教授と信岡誠治准教授の指導のもと、平成22年度は三年次生18名、四年次生21人の態勢で研究室活動を展開しています。畜産（肉牛・酪農・養豚・養鶏）における経営経済問題を中心として、生産から流通・販売・消費などの諸過程と関連付けながら課題解決に向けて取り組んでいます。

とくに、当研究室はわが国の畜産の将来を担う後継者および就農者を養成すること視野においていることからマネジメント演習では本の輪読や演習を実施し、さらに畜産経営のプロを育てるべくできるだけ畜産経営の現場にでかけ実践的な経営を学んでいます。また、4年次生は卒論作成に向けた演習などを実施しています。

研究室の研修旅行では千葉県の「マザー牧場」や「酪農のさと」を訪ね見聞を広めています。また、消費者団体などのシンポジウム、畜産フードフェア、農林水産省の飼料米シンポジウムなどへも参加し研鑽を重ねています。

研究活動は現場の畜産経営者が抱えている問題を一緒に考え、具体的な解決策を見いだしていくことを主眼として取り組んでいます。具体的には、配合飼料価格の高騰に対処するとともに畜産物の安全性と高付加価値化を図るため飼料米の研究に取り組んでいます。22年度も厚木農場（棚沢）の水田において無農薬で30アールの飼料米（モミロマン、北陸193号、みなゆたか、きたあおは、タカナリ、日本晴、リーフスター）の栽培試験を行うとともに、コメの給与試験やイナワラの飼料活用実験にも取り組んでいます。

す。研究室の実験畜舎では羊（2頭）、名古屋鶏、採卵鶏（ジュリア、ポリスブラウン）を飼養し、飼料米を自分たちで配合して給与しています。また、農研機構や神奈川県畜産技術センターなどとの共同研究も行っています。

さらに新たに東京農業大学農学研究所の学部プロジェクト研究にも採択され「多収米の安定多収・低コスト生産技術と日本型循環農業システムの開発」のテーマで、多収米の直播栽培の試験やイナワラのペレット加工とその活用技術（ワラエタノール残渣の飼料利用）の開発にも精力的に取り組んでいます。

なお、平成22年度の卒業論文の題目は次のとおりです。

平成二十二年度卒業論文題目

氏名	論文題目	指導員
阿部 太一	地方競馬の役割と今後のあり方	小栗 信岡
天野 奨	都市農業におけるブルーベリー農園の社会的機能と農家の経営意欲に関する調査	小栗 信岡
浦瀬祐太郎	飛騨牛の価格水準と飛騨牛飼養農家の収益性との関係	小栗 信岡

岡 優弥	飼料米の生産コストの現状と課題	小栗
加藤 裕司	農大生における牛乳消費動向	小栗
神林 孝輔	堆肥施肥量が飼料米「モミロマン」の生育に与える影響	信岡
小林 綱貴	ボツリヌス菌と牛との関係について	小栗
佐々木将郎	輸入牛肉が国産牛肉に与える影響	信岡
佐分 桃子	飼料米の成分特性について—脂肪酸を中心として—	小栗
篠生 玲奈	飼料米の成分特性について—アミノ酸を中心として—	小栗
竹之内大樹	モミロマンの直播による苗立率の調査	小栗
野口 竜	低コストのバイオマスプラントの建設と利用—酪農経営を対象として—	小栗

羽子田大陸	種雄牛別の枝肉調査	小栗
早瀬 憲一	飼料米給与がボリスブラウンの産卵成績等に及ぼす影響	信岡
広沢 竜次	飼料米給与による豚肉質への影響—とくにアミノ酸について—	小栗
福原 敏史	超多収米の堆肥施用量と収量について	小栗
松岡 太陽	軽種馬生産牧場の経営と課題—北海道I牧場を事例として—	信岡
馬淵 裕敏	日本の食生活の変化と畜産物消費との関係	小栗
山崎 悠理	鶏肉の価格形成とその要因	小栗
渡辺 隆造	飼料米給与による豚肉質への影響—とくに脂肪酸組成の変化について—	小栗
上野 宏幸	飼料米の畜産利用による食料自給率への影響	小栗

ふじみの寄稿原稿(教員)

飛躍・変身の家畜 —ウサギ年によせて—

家畜育種学研究室

野村 こう

「変身、トオー」の掛け声と共に両手を上に跳躍、着地すると超人に変身しているというヒーローものがあつた。変身後の姿はバツタかなにかの昆虫がモデルと記憶するが、飛んで変身となれば今年の干支、ウサギもそうである。私たちに身近なウサギはカイウサギといい、ウサギ目ウサギ科アナウサギ属アナウサギを家畜にしたもので、近縁のノウサギとは属を異にする。アナウサギが家畜化されたのはローマ時代の紀元前750年ごろ、家畜化を完成したのは中世ヨーロッパの僧侶とされるが、ウサギの順応性の高さに反して家畜化が遅かったのは、野生の生息地がヨーロッパの最南西部、イベリア半島に限られたためという。一方ノウサギ属はヨーロッパからアジアにかけて広く分布し、日本にも北海道にユキウサギが、本州以南にはノウサギが生息する。ノウサギとアナウサギは形態的によく似ている。しかし前者は巣穴を掘らず単独性、後者は巣穴を掘り群居するなど習性は著しく異なり、染色体数も前者は48、後者は44本で両者の間に雑種はできない。さて、変身は日本にもたらされたカイウサギたちに起こ

る。カイウサギの日本への初渡来は室町時代オランダ人によるとされるが、一般に飼われるようになったのは明治初期である。このときから日本にはウサギ飼養のブームが幾度か訪れるのだが、その度にウサギの飼育目的が変化する。明治初期のブームは愛玩用で、毛色の珍奇を競って大加熱し、遂に政府が事実上の禁令を発するに至つた。明治末の戦時には肉(缶詰)と毛皮(防寒衣)のための産業動物へと変貌する。大正時代にはアメリカへの輸出毛皮用として農家の副収入になり、昭和の戦時には再び軍需品として大いに飼われた。戦争が終わるとウサギの飼養頭数は急激に減るが、昭和の終わりに今度は実験動物として重要となり、サリドマイドの催奇形効果がウサギの使用で確認されたことは有名である。平成になつて、ウサギは今度はペットへの変身を遂げる。ウサギを飼うことに楽しみを感じる人々が増え、ラビットフードに専用ケージ、散歩紐やトイレのしつけ指南書まであるのには感心する。ところで我が農大畜産学科をこの春めでたく飛び出してゆかれる卒業生諸君、そして畜産学科にやはりめでたく飛び込んでこられた新入生諸君、末筆ながら誠におめでとうございます。ウサギの様に大きな飛躍をされた諸君がこれから遂げられる変身は、ネコ科トラの習性にて、しばしの間傍らで楽しみに観察いたしたいと存じます。今後とも、お付き合いの程、どうぞよろしく。

一步一步

家畜生理学研究室

原

ひろみ

また、入試のシーズンがやってくる。

私が大学受験の時はセンター入試とは言わず、共通一次と称され国立大学受験のみが統一されていた。マークシート方式という解答方法は公立高校受験で初めて経験した。この頃からマークシートが嫌いだ。いまのマークシートは数学でも解答の数値を選ぶようになってきているが、その時の答え方は数学の答えは選ぶのではなく、数値を数カラム使用して、表す方法だった。二百三十五ならば最初のカラムは②を塗りつぶし、次のカラムは③を、次は⑤を塗りつぶすといった具合だ。どれかを塗りつぶすのだから、くじの口ト6の様に当たる可能性がないわけではないが、確率は低い。算出した上でマークするのだが、マークが間違っていれば計算できようが不正解だ。逆に単純に単語でも文章でも記憶し、まるまる憶えることができれば、文章が意味することが解らなくても答えられる。極端なところでは、問題の意味がわからなくてもどれか塗りつぶせば解答したことになり、うまくいけば正解だったりする。

私はとにかく単純に憶えることが苦手である。最初に気がついたのは九九を憶えるときだ。小学校1年生で毎朝ド

はじめまして

家畜衛生学研究室

村田

亮

昨年四月から家畜衛生学研究室の助教として農大畜産学科に仲間入りした。分からないことだらけの一年間ではあったが諸先生方の温かく熱心なご指導と学生諸君の明るさに助けられ、楽しく充実した日々を過ごしている。本稿では、簡単な自己紹介と教員としての抱負について書かせて頂きたい。

衛生研に北海道からクマのような人が来た。と良く言われるが、実は生粋の浜っ子である。厚木キャンパスから約一時間半、海に程近い実家で高校卒業までを過ごした。幼い頃から生き物や自然が大好きで、動物のことを勉強したいと思ひ北海道の大学に入学した。当初は牛や豚に囲まれる仕事を目指していたのだが、気が付けば微生物の世界に心を奪われていた。様々な色、形、大きさ、そしてニオイ。どこことなく儂げな細菌……。そんなわけ(?)で微生物と戯れるために大学院に進学、うっかり十年間も雪に埋もれてしまったのである。

さて、そんな私がどうして農大に就職したのか。そろそろ就活を、と思ひ立ち、Yahoo!に「家畜」「微生物」「募集」と入力して一番上にヒットしたのが農大・衛生研。私が微生物の虜になったのは大学二年の時受けた「細菌学実

リルをするように唱えさせられた。教室の壁には名前の横に1から順に憶えられたことを証明するシールが先生によつて貼られていった。暗唱テストである。五十数名のクラスでワースト5に入つていたように記憶している。まず、3の段で全然憶えられなくて、次は7の段でもういいやと思つた。片方が偶数、要は2の倍数だとすぐに考えられたのだが、奇数と奇数になると前の奇数と偶数のかけ算をしてそれに奇数を足してといった計算をしてからやつと思ひだしたかのように言つていたのである。すんなり言えないとシールは貼ってもらえなかった。毎日もうやだと思つているうちに風邪を引いて2、3日学校を休んだらほとんどの子が9の段までシールが貼られていた。単純に憶えることは出来なかつたが結果は同じである。足し算を教わつていたからこそ出来ることをつないだだけの方法。足し算という一歩を踏んでいたからその計算の意味が解つたから次のかけ算の一歩をつまづきながらも出来るようになった。初めてのこととは出来なくて当たり前だ。けれども、苦手だ、嫌だと思つてやらなければ、ずーとその事については出来ないまま、苦手なままだ。

決められたことを決められたように出来るのも能力だと思ふ。しかし、何も考えないで憶えるばかりでは様々なことに適応できない。大学では専門用語を憶えるのが勉強ではない。知識を得る過程が大いに学ぶ場ですべての一歩に通じ、つねに考えて理解するよう勉めて学べば、一歩一歩でも進むことができる、私はそう考えている。

習」。先生にシャーレを渡されて、好きなモノを塗つてみると言われた。私が塗つたのは自分の唾とトイレの水。結果は：トイレより自分の口の方が汚い???目に見えない生き物が見えてくる、その不思議に夢中になってしまった。以来自分の人生は微生物一辺倒。もし自分が教員になれば、同じような人生の転機となるような体験を学生に味わってもらえるのではないかと考え、農大に応募したのだ。

私は10年にも及ぶ学生生活の中で、何かに没頭し、一生懸命勉強したという「経験」、この分野なら誰にも負けなという「自負」は知識や技術と同じくらい強い武器になるということを知つた。実際に、大学院に進学して大きく環境が変わつた時、私を支えたのは学部生の頃、誰よりも一生懸命「細菌学」を学んだという自信であった。直接的に役に立つ知識がなかったとしても、「あの時あれだけ頑張れたんだから」という思いが個々の人生の糧となるよう、学生には充実した学生生活を送ってもらいたい。研究室配属後、必ずしも全ての学生がやりたいテーマを扱えるわけではないだろう。学生にとつて自分の進路とは直接関わりやすい分野に対し、意欲を保ち続けることは容易ではない。そのような学生達に対しても、昨日まで学生であった私の立場から、今与えられた課題を全力で遂行することの大切さを伝えていきたいと強く思つている。

脈絡のないことを長々と書いてしまったが、まだまだ力量不足ではあるが、とにかく若さと勢いで「学生第一」の姿勢をつらぬいて行きたい。みなさんも(今のところ)若くて話しかけやすい私をいっぱい利用してもらえたら、と思つている。

集う学友

あつという間の4年間

畜産学科

4年 岡

優 弥

4年間の学生生活はあつという間に過ぎてしまった。入学式がついこの間の様に思う。

入学したては、授業が多かった上に教室の場所が分からなかった。同じ場所を何回も行き来していた。入学を機に実家から離れ一人暮らしを始めたこともあり、家に帰っても一人だからすることが多く、毎日の生活を必死に過ごしていた様な気がする(そのおかげで今では料理もだいぶ上達したと思う)。仲間が出来るか心配していたがすぐに仲間ができ、大学生活を楽しく過ごすことが出来ました。

2年生になると大学生活にも慣れてきたことで生活に余裕が出来た。そんな中で熱中し始めたのがサークル活動でした。毎日のように暗くなるまで、ぼうさいの丘で練習をしていたのは大学での一番の思い出です。その中でも仲間が出来、試合や飲み会とイベントも多くなりとても充実していました。試験が近くなれば徹夜で勉強したことも良い思い出です。

3年生は、希望であったマネジメント研究室に入ること

この一年

畜産学科

3年 小林

美 紀

私が農大に入学してから三年がたちました。そして今、一番入りたかった研究室に所属しています。それが家畜衛生学研究室です。

衛研に入った当初は、いつも一緒に過ごしていた友人と違う研究室になったので同期や先輩と仲良くやっていたのが不安でした。しかし、週一回の実験実習や豚の世話(当番)を通してそんな不安はすぐになくなりました。また、普通高校の出身の私にとって豚の世話はもちろん、鶏や豚の解剖、菌を培地に塗って培養するなどの経験が全くありませんでした。普段受けている座学の授業とは違い、演習や実習が多く私にとってすべてがとて新鮮でした。

夏休みになると研究室のある生活にもだいぶ慣れ、当番と部活との毎日でした。当番の合間に部活に顔を出すこともしばしばありました。夏の当番で豚と接する機会が増えるのと体調の変化だけでなく機嫌の良し悪しもわかるようになります。また豚の妊娠・出産に関わるという貴重な体験もできました。

そして夏休みが明けると農大の一大イベントである収穫祭の準備がありました。私は文展の担当になり、仲間と資

ができ、幹事という役職を任せられた。幹事であったために、収穫祭の運営はとても大変でしたが私自身を大きく成長させたと思っています。その中で先輩や同級生でも初めて話す人など新たな出会いがあり仲間が出来ました。そして就職活動のスタート。世間では就職氷河期と騒がれていたこともあり、凄く危機感や不安があり、なかなか寝付けないこともありました。

4年生になると授業を取る必要もなくなり、就職活動の日々でした。1日に3社受けたことや、厚木と実家のある岐阜との往復が何回もありました。就職が決まればバイトを始め、学校には顔を出しに行く程度になってしまった。今思えばもつと行っておくべきだったと後悔しています。しかし、サークルのメンバーで参加した収穫祭の模擬店では、台風で日程が大幅に短縮されてしまいました。とても盛り上がり大学生活最後のイベントとしては最高の思い出になりました。

最後に、東京農業大学で過ごした4年間は私にとっても充実したものになり、大きく成長できたと思っています。仕事も農業に関わっていきける仕事であるため、学んできたことを生かしていきたいと思っています。絶対に後悔することがないよう、今しかできないことを沢山経験してください。そして良い仲間を作ってください。

この場を借りて、4年間関わってきた全ての人に感謝いたします。

料を収集し、展示パネルを作りました。また模擬店の「しし汁」の準備も手伝いました。そのような中で仲間とより親睦を深めることができました。

衛研に入って一年が経とうとしています。今では楽しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、辛いことを共有できる仲間がいます。そして、これからそれぞれの道に進むために、就職活動や卒論をやらなければなりません。私は、たくさん思い出を仲間達と、もつと作っていききたいと思っています。この研究室で過ごせるのもあと一年、悔いの残らないように過ごしたいと思っています。家畜衛生学研究室に所属できて本当に良かったです。

農大での出会い

畜産学科

2年 縫田 早希

私が農大に入学してからあつという間に2年が経ちました。この農大での2年間を振り返ると、たくさんの人との出会いがあつたことが思い出されます。

その中でも最も私にとって大きな出会いは1年生の時からずっと共に学校生活を過ごしている2人の友達との出会いです。きっかけはふとしたことで、入学してすぐの頃掲示板の前で声をかけたことでした。地元も話し方もまったく違うのですが、それ以来一緒に行動するようになり、自然と打ち解け合うようになりました。また、サークルも同じものに所属することになり、私にとって今ではかけがえない存在です。

1年生の夏休みに実施された畜産実習でも私は良い友達をつくることができました。始めのうちは学籍番号の近い友達が元々いなかった為、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、4泊5日という期間での実習を通して協力し合い活動したことで、自然と仲良くなり、気が合う友達を築くことができました。1年の後期の化学実験・生物実験や2年の前期の畜産学実験実習を通して、実習で築くことのできた友達と助け合いながら学んで行くことができました。

した。

サークルでは頼れる先輩方との出会いがありました。私を妹のように可愛がってくれる優しい先輩や、親身になって相談に乗ってくれる頼もしい先輩など、それぞれに素敵な面をもっているたくさんの先輩方に囲まれ、私はこの大学2年間を過ごしてきました。私にとってこの先輩方との出会いはとても大きなものとなっています。

この2年間を通し、私はたくさんの人と出会い、支えられ助け合い過ぎてきました。農大に入学してからのこれらの出会いは私にとってこれからも大切なかけがえないものです。来年は研究室に入り、また新たな出会いが待っています。私は今までの出会いを大切にし、これからの新たな人との出会いを素敵なものとしていきたいです。そして、私を支えてくれているすべての人たちに感謝し、残り2年の農大での生活を一日一日大切に過ごしていきたいと思っています。

大学1年生を振り返って

畜産学科

1年 下田 星美

農大に入学して1年が経ちます。入学式が昨日のことのように感じるほど、あつという間の1年間でした。入学したての頃は、少し不安がありました。友達もできず、サークル活動など楽しい日々を送ることができませんでした。その中でも、1年間で思い出に残ったのは、サークル活動と収穫祭・体育祭でした。

サークルは、ファーマーミング同好会に入っています。主な活動は、農家の農作業、収穫又はお掃除のお手伝いをしています。このサークルに入った理由は、高校時代に酪農家の所で職業体験をして、農業に関心を持ったのがきっかけでした。サークルでは、野菜や米農家以外に、養鶏や養豚、酪農など畜産農家の所で活動していきます。去年は、口蹄疫の問題で、酪農家での活動はできませんでしたが、養鶏や養豚農家の活動に参加することができました。大学の授業で学んだこと以外に農家さんと農家の状態や経営について話を聞くことができ勉強にもなりました。また、活動の後に農家さんから野菜などの農産物を頂くことができることも魅力のひとつです。養鶏農家での作業後、産みだての卵で作った玉子かけご飯の味はいまでも忘れられません。

他にも、野菜の収穫や田植え、稲刈りと1年間を通して、様々な活動に参加することができました。とてもいい経験ができたと思います。

収穫祭では、サークルの模擬店を担当しました。主に2年生の先輩が中心となつて動くので先輩の指示で調理や販売を行いました。先輩たちはテキパキして手際が良くてすごいと思いました。そのおかげで、見事に材料が余る事がなく完売しました。収穫祭が終わると次は体育祭です。体育祭では、畜友会に所属している友達も参加するので、応援も兼ねて友達と見に行きました。今年で各学科の応援席として使われる樽装飾が最後になるのでどの学科も綺麗で個性があり迫力がありました。特に凄かったのは、畜産学科でした。樽の背景が、牛、龍と2つを組み合わせたものの3種類あり、競技の間に背景が変化する仕掛けで、気がついた時には変わっていたのにはとても驚きました。また、応援合戦は迫力のある演技でみんなとても格好よかったです。

今年から私も2年生になります。2年生からは、3年生から所属する研究室決めや学術過程の講義も始まります。そして、気を引き締めてサークルの中心となり積極的に活動に参加したいと思います。

平成 21 年度 畜友会 収支決算報告

収支決算書 平成 21 年 6 月 1 日～平成 22 年 5 月 31 日

I. 一般会計

収入の部

(単価：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考	
会 費	新 入 生 (H22年)	1,420,000 ¹⁾	2,200,000	780,000	
	編 入 生 (H22年)	0 ²⁾	10,000	10,000	
	過 度 年 分 (H21年)	505,000 ³⁾	2,500,000	1,995,000	
雑 収 入	1,326 ⁴⁾	0	△ 1,326		
前期一般会計繰越金	1,829,700	1,446,753	△ 382,947		
H21年度特別会計からの繰入金	186,290	0	△ 186,290	特別会計収支差額	
合 計 (A)	3,942,316	6,156,753	2,214,437		

1) 新入生：10,000 円×142 名

2) 編入生：5,000 円×0 名

3) 在校生：10,000 円×50 名, 5,000 円×1 名

4) 利息：1,326 円

支出の部

(単価：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考
①収穫祭特別会計費	513,768	700,000	186,232	
②ふじみの印刷費	420,000	430,000	10,000	
③卒業祝賀会費	138,718	180,000	41,282	
④卒業記念品費	260,820	300,000	39,180	
⑤新入生歓迎会費	148,197	150,000	1,803	
⑥消耗品費	27,318	30,000	2,682	
⑦特別講演会費	15,204	50,000	34,796	
⑧畜産学科協賛金	500,000	500,000	0	
⑨雑 費	0	50,000	50,000	
⑩予 備 費	1,918,291	0	△ 1,918,291	
合 計 (B)	3,942,316	2,390,000	△ 1,552,316	
収支差額：(A)－(B)	0	3,766,753	3,766,753	

平成 22 年度畜友会活動報告

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

畜友会だより

平成 22 年

- 4 月 22 日 新入生歓迎会 (於 レストランけやき)
- 5 月 24 日 厚木キャンパス春季スポーツ大会参加
～ 28 日
- 6 月 23 日 宮崎県口蹄疫募金活動
～ 30 日
- 7 月 8 日 平成 22 年度畜友会定期総会
平成 22 年度畜友会・畜産学科統一本部の立ち上げ
(於 トリニティーホール)
- 10 月 18 日 第 11 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 119 回体育祭畜産学科統一本部本部開き
(於 レストランけやき)
- 10 月 24 日 厚木パレード (於 厚木一番街)
- 10 月 29 日 第 11 回厚木キャンパス収穫祭 前夜祭 参加
- 10 月 30 日 第 11 回厚木キャンパス収穫祭 参加
～ 31 日 (家畜苑、研究棟アート、特別企画、宣伝隊)
- 11 月 2 日 第 119 回体育祭 参加 (於 世田谷キャンパス)
- 11 月 8 日 第 11 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 119 回体育祭畜産学科統一本部慰労会 (於 レストランけやき)

平成 23 年

- 3 月 20 日 畜友会誌「ふじみの」47 号発行
- 3 月 21 日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈 (於 厚木キャンパス)

平成 22 年度畜友会予算 (案)

収支予算書 平成 22 年 6 月 1 日～平成 23 年 5 月 31 日

I. 一般会計予算 (案)

収入の部

科 目	H22 年度予算額	H21 年度決算額	差 異	備 考	
会 費	新 入 生 (H23 年)	2,100,000 ¹⁾	1,420,000	680,000	
	編 入 生 (H23 年)	50,000 ²⁾	0	50,000	
	過年度分 (H22 年)	2,010,000 ³⁾	505,000	1,505,000	
雑 収 入	0	1,326	△ 1,326		
前 期 繰 越 金	186,290	2,016,090	△ 1,829,800		
合 計	4,346,290	3,942,416	403,874		

- 1) 新入生：10,000 円× 210 名
 2) 編入生：5,000 円× 10 名
 3) 在校生：10,000 円× 216 名
 7,500 円× 2 名
 5,000 円× 12 名

支出の部

科 目	H21 年度予算額	H20 年度決算額	差 異	備 考
収獲祭特別会計費	700,000	700,000	0	
ふじみの印刷費	430,000	420,000	10,000	
卒業祝賀会費	180,000	170,354	9,646	
卒業記念品費	300,000	242,193	57,807	
新入生歓迎会費	150,000	145,422	4,578	
消耗品費	30,000	23,311	6,689	
特別講演会費	50,000	0	50,000	
畜産学科協賛金	500,000	-	500,000	
雑 費	50,000	0	50,000	
予 備 費	1,956,290	0	1,956,290	
合 計	4,346,290	1,701,280	2,645,010	

平成 21 年度 収獲祭特別会計収支決算報告

平成 21 年 6 月 1 日～平成 22 年 5 月 31 日

II. 収獲祭特別会計

収入の部

(単価：円)

科 目	畜 友 会 援 助 費			備 考
	決 算 額	予 算 額	差 額	
一般会計からの繰入金	700,000	700,000	0	一般会計支出①
雑 収 入	58	0	△ 58	普通預金利息
前 期 繰 越 金	100	100	0	
合 計 (C)	700,158	700,100	△ 58	

支出の部

(単価：円)

科 目	畜 友 会 援 助 費			備 考
	決 算 額	予 算 額	差 額	
統一本部口座維持費	100	0	△ 100	
統 一 本 部	369,735	400,000	30,265	
特 別 企 画	0	0	0	
体 育 祭	24,534	70,000	45,466	
宣 伝 隊	16,603	50,000	33,397	
装 飾	41,665	50,000	8,335	
家 畜 苑	61,231	100,000	38,769	
予 備 費	0	30,000	30,000	
合 計 (D)	513,868	700,000	186,132	
収支差額：(C) - (D)	186,290	0	△ 186,290	一般会計繰入金

上記の通り報告する。
2010 年 7 月 8 日

畜友会会長 鈴木敏郎 印

監査報告書

畜友会会則第 9 章、29 条及び 30 条の規定に基づいて平成 22 年 7 月 8 日に平成 21 年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。
平成 22 年 7 月 8 日

高橋 幸水
佐々木 裕哉

平成 21 年畜友会監査委員

原 ひろみ
福田 庄司

平成22年度畜友会役員

平成22年6月1日～平成23年5月31日

役職(教員)	氏名	研究室
会長	鈴木敏郎	畜産物利用学研究室
副会長	村上覚史	家畜衛生学研究室
副会長	桑山岳人	家畜繁殖学研究室

・執行委員

委員長	3年 柳原和馬	家畜飼養学研究室	
副委員長	3年 鈴木麻琴	畜産物利用学研究室	
	2年 榊原啓太	畜産マネジメント研究室	(予定)
書記	3年 梅村直美	家畜育種学研究室	
	2年 青木真帆	家畜繁殖学研究室	(予定)
会計	3年 杉山絵美	家畜飼養学研究室	
	2年 伊藤知里	家畜繁殖学研究室	(予定)
渉外	3年 恒松数磨	家畜繁殖学研究室	
	2年 猪瀬真宏	家畜飼養学研究室	(予定)
企画	3年 石川絵美子	家畜衛生学研究室	
	2年 川口純平	畜産マネジメント研究室	(予定)
庶務	3年 蛭川友磨	家畜飼養学研究室	
	2年 小林由音	家畜衛生学研究室	(予定)
編集	3年 菊地忍	家畜飼養学研究室	
	2年 竹内薫	畜産物利用学研究室	(予定)
監事(教員)	原ひろみ	家畜衛生学研究室	
	高橋幸水	家畜育種学研究室	
監事(学生)	3年 福田庄司	家畜衛生学研究室	
	2年 郡山貴義	家畜飼養学研究室	(予定)

※学年は平成23年3月現在

特別会計予算

平成22年6月1日～平成23年5月31日

II. 特別会計予算(案)

畜友会援助費				農友会学科助成金			
収入の部				収入の部 (単位:円)			
科目	H21年度予算額	H20年度決算額	差額	科目	農友会厚木支部助成金		
					予算額	決算額	差額
一般会計から繰入金	700,000	700,000	0	畜産学科助成金	1,590,000	1,590,599	599
雑収入	0	26,479	△26,479	合計	1,590,000	1,590,599	599
前期繰越金	100	269,814	△269,714				
合計(A)	700,100	996,293	△296,193				

支出の部				支出の部			
科目	H21年度予算額	H20年度決算額	差額	科目	農友会厚木支部助成金		
					予算額	決算額	差額
統一本部	400,000	385,315	14,685	1 学科助成金	560,000	498,375	61,625
特別企画	0	0	0	事務費	30,000	10,750	19,250
体育祭	70,000	17,649	52,351	記録費	50,000	9,442	40,558
宣伝隊	50,000	30,295	19,705	交通費	130,000	136,800	△6,800
装飾	50,000	16,800	33,200	神輿代	120,000	121,687	△1,687
家畜苑	100,000	70,278	29,722	パネル代	100,000	92,257	7,743
予備費	30,000	0	30,000	応援合戦・衣装代	130,000	127,439	2,561
合計(B)	700,000	520,337	179,663	2 学内装飾費	180,000	179,793	207
収支差額	100	475,956	△475,856	3 収穫祭体験企画費	850,000	767,696	82,304
				鋼管リース代	180,000	172,956	7,044
				運搬代	400,000	345,981	54,019
				装飾代	270,000	248,759	21,241
				4 返還金	0	144,735	△144,735
				合計	1,590,000	1,445,864	144,136

第十一回厚木キャンパス収穫祭・第一一九回体育祭事業報告及び結果報告

【事業報告】 統一本部

畜産学科統一本部の第11回収穫祭での活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動、研究棟アート、特別企画、家畜苑、櫓装飾、体育祭を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては先生方と連絡を取り、畜産学科統一本部の各部門及び第11回厚木キャンパス収穫祭実行本部、同じ厚木にある農学科統一本部、バイオセラピー学科統一本部、また世田谷13学科統一本部と連携し、そして畜産学科統一本部をまとめて厚木キャンパスでの収穫祭、世田谷での体育祭を成功させるために2カ月間全力疾走しました。

本年度は台風の影響により、例年とは全く違ったかたちの収穫祭、体育祭となりましたが、それでも一年生から三年生の総勢52名で力を合わせて成功させることができました。



来年度も、どんな困難にも負けることなく、一年生と二年生それに新一年生と一致団結し、今年の収穫祭・体育祭に負けないものをつくり上げられるよう頑張りたいと思います。

特別企画

今年も多くのお客様や来ていただいた地域の皆様に参加していただき、楽しんでいただくため特別企画本部が一丸となってステージ企画を作り上げました。

主に私たちが企画したのは、前夜祭で学生たちが運命の相手を見つける『相思相愛』。多くの来場者の方に参加していただいた『〇×ゲーム』。そして収穫祭最大のイベント、農大のミスター・ミスを決める『NBC・Nodai Beauty Contest』です。

しかし、今年は台風の影響により、多くの企画が中止となり、また外のステージではなく体育館での企画となってしまいました。実際に行った企画も、収穫祭1日目は時間の関係により短縮せざるを得ない状況となってしまいました。そのため、『NBC』では参加していただいた方に多大なご迷惑をおかけする結果となってしまいました。

今年はいくつかのトラブルがあり、とても大変でしたが良い経験ができたと思っています。来年は今年の経験を生かし、どんなことにも対応できるようにがんばっていきたいと思います。また今年以上に参加していただいた方々、見に来ていただいた方々に楽しんでいただき、また来たいなど思っていただけのような企画を作り上げたいと思います。



宣伝隊

宣伝隊は、東京農業大学の収穫祭を知ってもらうためにイベントに参加してウチワを配ったり、各駅などに赴き宣伝活動を行います。「大根」と「鮎」の柄が入った白の浴衣に、嚙脂（えんじ）色の法被を羽織り、足袋を履いて、宣伝活動を行います。

8月には、厚木で行われる鮎祭りのDANCEフェスティバル、初の試みとなる厚木ジャズナイトフェスティバルで宣伝活動を行い、9月には店回り宣伝活動、各駅でピラを配る各駅宣伝活動、収穫祭間近の10月には、全学科応援団によるリーダー公開があるSATY前宣伝活動、厚木一番街を3学科の神輿を担ぎ、練り歩く厚木パレード、伊勢原で行われる伊勢原畜産祭りで宣伝活動をしました。厚木パレードは悪天候の影響で予定日を大幅に過ぎ、たくさんの人に迷惑をかけたが、無事練り動く神輿を見ることができました。

収穫祭当日は野菜無料配布を行いました。1日目は台風の影響により急遽、室内での無料配布を行い、2日目は無事に晴れ、青空の下、野菜を渡すことができたい人が出るほどたくさんの方が並び、無事野菜を配り切ることができました。

「ちびつ子アートギャラリー」では講義棟1〜3階の壁に、地域の幼稚園、小学校の子供たちに描いてもらった絵を飾り、様々な方に見てもらうことができました。

今年の収穫祭来場客数は2日合わせて2万5000人、配ったピラの枚数は約6万枚。天候に恵まれない年ではありましたが、最後まで宣伝活動を行うことができました。来年度も皆様のご協力のもと、1人でも多くの方に収穫祭を知ってもらうため、宣伝隊一丸となって頑張ります。

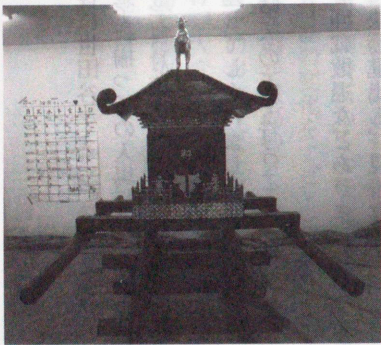
神輿

神輿は、収穫祭の宣伝や本祭を盛り上げるため、夏休みがスタートしてから約二ヶ月間製作をしました。

例年は、世田谷キャンパス、厚木キャンパスどちらも含め最優秀神輿というものを決めていましたが、今年からは更に厚木キャンパス内だけの最優秀神輿を決めることも加わりました。

今年の神輿の象徴になったのは屋根の上に金色の牛を飾ったことでした。この牛は、神輿を見た瞬間すぐに目に映り誰でも畜産学科の神輿とわかるような畜産学科らしい神輿となりました。この牛が審査員の目に留まったのか、厚木キャンパス部門第二位、世田谷、厚木部門最優秀神輿という輝かしい賞を勝ち取ることができました。

来年の神輿は先輩たちが作り、今年の最優秀神輿を生み出したといえる畜産学科らしい神輿の伝統を残しつつ、二年連続最優秀賞をとれるように自分たちのオリジナリティを加え、ねだるな勝ち取れ、さすれば与えられる。



体育祭

体育祭は毎年収穫祭の後に世田谷キャンパスグラウンドにて行われます。当日は16学科揃っての入場行進で始まり、綱引き、先生頑張っつて、各学科対抗リレー、応援合戦など、様々な競技が行われます。

今年も雨のため1日順延してしまいましたが、順延した甲斐あって体育祭当日は晴天の下で行うことができました。

競技の部では、綱引き2回戦敗退などありましたが、各学科対抗リレーは男女共に決勝進出し、見事女子1位を勝ちとることができました。

また体育祭の目玉の一つでもある応援合戦。今年のテーマは「竜」にしました。大人数での迫力の演技、3年生による代表の踊り、腕には竜のうろこをペイントし、大道具には竜、衣装はリバーシブルに畜産学科のトレッドマークの牛柄を襟元に取り入れました。最初から最後まで目が離せない作品となりました。ほぼ毎日の体育館練習、個人練習、みんなの努力の甲斐もあり、第3位をとることができました。

総合では櫓装飾の第1位も含め、見事優勝することができました。先生方をはじめとする学内の皆様ご協力もあり、10年ぶりに優勝することができ、素晴らしい体育祭になったのではないかと思います。本当にありがとうございます。

来年は今年以上の活躍をご期待ください。

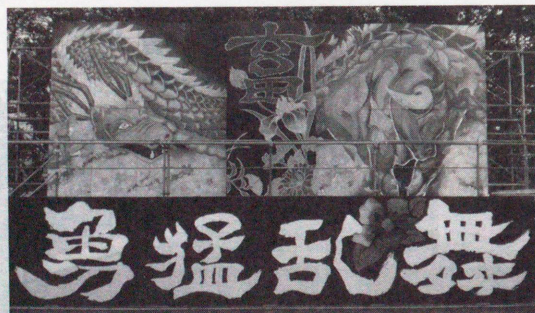
櫓装飾

「櫓装飾」とは各学科、体育祭の応援席としてグラウンドに並べられる櫓に取り付けられる高さ約5.5m、横幅約9mの大きな作品です。これは世田谷キャンパスでは「パネル」と呼ばれ、体育祭での得点対象の一つです。

今年の絵は、体育祭のテーマである竜と、家畜の代表である牛を、その真ん中には「畜」の字と和の花を書きました。下段には絵のイメージである牛が戦う様を表した「勇猛」と竜が乱れ泳ぐ様を表した「乱舞」、「勇猛乱舞」と書きました。さらに「乱」の近くを椿の形に板を抜き、裏から紙を張り、光をあてました。

そして3年ぶりに仕掛けに挑戦しました。仕掛けとは作品に何か工夫をすることで、私たちは大きな絵をガラリと変えるために、絵本のようにページをめくり、2つの作品を見せることにしました。1枚目は左に牛、右に竜。2枚目は左に竜、右に牛。本番は同時にめくったり、交互にめくったり、何度も絵をめくり絵の変化をアピールしました。

結果はなんと1位！これは櫓が最高のメンバーだったのと、櫓を手伝ってくれた方々のおかげだと思います。台風で2度もパネルを取り付け、大変でしたが感謝の気持ちでいっぱいです。来年も仲間と協力して、はっとするような作品を作りたいです。

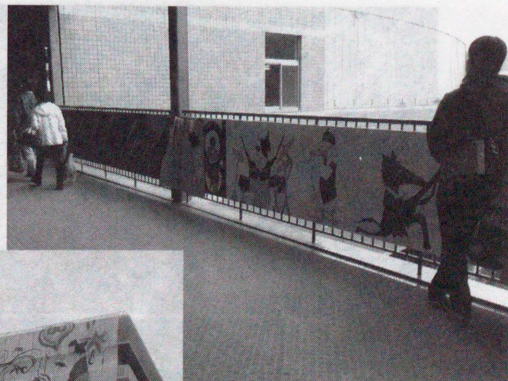


研究棟アート

研究棟アートとは東京農大の研究棟の壁一面に巨大な絵を掲げ、収穫祭が間近であることを知らせ、より多くの人に来ていただきたいという宣伝のために作られたものです。この絵は縦15メートル横1.2メートルの白い布を11本つなぎ合わせることでよってできあがります。

今年も昨年同様、校外から見える場所に2枚、校内から見える場所に1枚の合計3枚の絵を掲げました。校外の絵は収穫祭を近隣の方々に知らせるために、校内の絵は収穫祭を校内から盛り上げようという思いで作りました。また、今年には校内をより盛り上げるために、渡り廊下にパネルを設置し飾らせていただきました。今年の作業は8月下旬から始め、多くの方々に協力していただいたおかげでスムーズに終わることができました。残念ながら台風の影響で校外の絵1枚が強風にあおられ破れてしまいました。本祭1週間前から絵を掲げていたので、より多くの方々に収穫祭の知らせをお届けすることができ、その役割を十二分に果たせたと思います。

来年度は今回の反省点をしっかりと踏まえ、改良に改良を加えより良いものを作っていきたいと思っています。このアートを通してみんなの力が1つとなり、収穫祭の成功への祈りやこの収穫祭がすべて学生による手作りの学園祭であるという事を皆様にお伝えできればと思います。



家畜苑

家畜とは、普段私たちの食卓に並ぶお肉を提供してくれる動物たちの事です。家畜苑とは牛や豚、ヤギ、羊、鶏たちは可愛い動物ですが、私たちはその命を貰って食べているという事を皆様に理解して頂くための場であると言えます。

農業や食育が注目される中、小さな子供さんにも保護者の方にも興味を持って頂けるよう、解りやすく楽しんで学べる空間を目指しました。ただ動物に触れられるだけでなく、動物たちの品種や誕生から消費者に届くまでの過程をまとめた展示があり、それをきちんと読んで頂くよう、クイズを実施したり、鶏の雛を手にとり温もりを感じてもらおうブースの設置、バター作り体験など、頭と体を使う事で家畜を身近に感じてもらえるよう工夫がされています。今回の家畜苑への来場をきっかけに、家畜の存在を知って頂くとともに、彼らの命と引き換えに私たちの生活が成り立っているという感覚を持ち、生き物に対する見方を変えるような経験になれば幸いです。



【結果発表】

体育祭

総合順位	優勝 (醸造学科と同率)
競技の部	4位
各学科対抗リレー (女子の部)	1位
応援合戦の部	3位
樽装飾	1位
神輿	最優秀神輿 (農学科と同率)



東京農業大学農学部畜産学科 畜友会 会則

第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦
- (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
- (3) 機関紙「ふじみの」の発刊
- (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
- (5) その他第三条に付帯する業務

第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。

- (1) 正会員 畜産学科の学生
- (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生
- (3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認

第六条

認を得た者。
本会は次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 執行委員

第七条

- (1) 会長は会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。

また1名は総務を他の1名は会計を分担する。

- (2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。

副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条

- (1) 本会には連絡委員を置く。
- (2) 連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、

第九条

役員および連絡委員の選出および任期
委員長会の決定事項を会員に伝達する。

- (1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の

中から推薦し、総会において決定する。

- (2) 執行委員は、執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、ほかの1名を2年次生より選出するものとする。

尚、監事4名の内の2名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事はほかの役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

- (3) 執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。

- (4) 連絡委員は、各学科（1、2年次）および各研究室（3、4年次）で協議のうえ選出する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

第四章 総会

- 第十条 (1) 総会は定期総会とする。

第十一条

総会開催は七日以前に公示しなければならない。

第十二条

- (1) 総会は正会員および特別会員の四分の一以上の出席により成立する。

- (2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の五分の一を上限とする。

第十三条

- (3) 委任状の検査は執行委員が行う。

- (4) 定期総会は次の事項を決議する。
 - ① 前年度の事業報告および収支決算報告
 - ② 次年度の役員
 - ③ 次年度の事業計画および収支予算
 - ④ 会則の改正
 - ⑤ その他

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指

名することができる。

第十五条 議長は書記2名と議事録署名名人2名を選出する。尚、議事録署名名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条 総会の議決は出席者の過半数によつて議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条 (1)第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

(2)会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の三分の二以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条 執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条 執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催

する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。

(1)連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2)連絡委員会は次の事項を処理する。

①執行委員会で決定した事項の伝達。

②1、2年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3)連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条 本会の事業年度および会計年度は六月一日に始まり、翌年の五月末日までとする。

第六章 会計

第二十四条 本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以つてこれにあてる。

但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五条 (1)会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入、転学科学学生は学年に応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取り消しの場合はその限りではない。

(2)会費は会長および委員長連名で毎年三月に入学対象者に対して請求するものとする。

第二十六条

本会の会計は、所定の形式に従つて処理し、決算はすべて監事の監査を経なければならぬ。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条 (1)第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2)編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3)編集委員会の責任者は編集委員のうち一名が担当する。

(4)編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もつて執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条 (1)第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2)設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3)委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九条 監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執

行しているか否かを監査する。

第三十条 監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。

尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

第十章 付則

第三十一条 本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条 本会則は前規約を改正し、平成一〇年二月二〇日よりこれを試行する。

畜友会収穫祭内規

第一章 目的

第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条 収穫祭は東京農業大学農学部畜産学科畜友会規定第1条及び第9条に基づく収穫祭に参加する。

第二章 組織および役員

第三条 収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

- 1、統一本部
- 2、宣伝隊実行本部
- 3、特別企画実行本部
- 4、学内装飾実行本部
- 5、家畜苑実行本部
- 6、体育祭実行本部

第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

- | | |
|---------|-----|
| 会長 | 1名 |
| 副会長 | 2名 |
| 統一本部顧問 | 若干名 |
| 統一本部委員長 | 1名 |

第六条

- (1) 会長は会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはこれを代理する。
- (2) 統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。
- (3) 統一本部委員長は各実行本部を統括する。
- (4) 統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。

(4) 各実行本部責任者は各実行本部の運営を担当する。各実行本部副責任者は各実行本部責任者を補佐するとともに各実行本部担当者と協力して円滑な運営・実施にあたる。

第七条 実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。

- (1) 6本部会議は会長、副会長、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部会計ならびに各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部会計で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。
- (2) 各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部責任者がこれを務める。

第四章 付則

- 第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会に諮った後、畜友会定期総会で承認を得る。
- 第十三条 本内規は平成十五年六月一日よりこれを実施する。

第三章 会計

第八条 収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金な

統一本部副委員長 1名

統一本部会計 1名

各実行本部顧問 若干名

各実行本部責任者 各1名

各実行本部副責任者 各1名

各実行本部会計 各1名

(1) 会長は畜友会会長がこれにあたる。副会長は畜友会副会長がこれにあたる。

(2) 統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より会長がこれを委嘱する。

(3) 統一本部委員長は畜友会執行委員がこれにあたる。統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部責任者、各実行本部副責任者および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、会長および各実行本部顧問の了承を得てから委嘱する。

(4) 統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

(1) 会長は会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはこれを代理する。

(2) 統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

(3) 統一本部委員長は各実行本部を統括する。

(4) 統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

らびにその他の収入をもつてこれにあてる。

予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。

会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

僕なりの畜友会とは

統一本部委員長

3年 柳原 和馬

まず始めに、題名に僕なりの畜友会としたのは、僕の言葉が畜友会というものを表しているの不安だからだ。
だが、ここでは僕が思った畜友会を記していきたいと思う。

僕が委員長になっての畜友会の方針は、実は結果なんかどうあってもよかった。ただ、まずは今年の畜友会に入った仲間との絆を深め、仲良く楽しくやっていきたいかった。

しかし、仲良く楽しくなんて、理想通りには進まない。仲良くすれば楽しくなくなる人もでてくる。

みんなは、去年の先輩方が体育祭で総合準優勝した事もあり、先輩方の教えに恥じないよう、日々努力して作業に取り組んできた。
今年度は僕らが畜友会での最上級生なの



で、プレッシャーは少なからず、とてもあった。そのプレッシャーがあったため、今年一年楽しかったかと聞かれれば、楽しかった、苦しかった、大変だった。意見は人それぞれだろうが、体育祭では結果的に畜産学科では10年ぶりの総合優勝という大変名誉ある結果で終える事ができた。
この結果によって、これまでとても、苦しい思いをした事が、喜び、達成感を感じれる事ができた。

また僕はそれまでやってきた過程も大事だが、結果を得ることにより、絆をより深める事ができる事を知った。

これから入るであろう畜友会の後輩に伝えられるのは、まずは畜友会に入った仲間とたくさん話せ、絡め。

そして、自分達がどういう畜友会にしていきたいのかを意志統合する事を勧める。どういう畜友会にしていくのも君たちだ。

短い大学生活において畜友会というものは色んな事を教えてくれるという事だけを伝えておきたい。

また、鈴木学科長をはじめとする諸先生方、関係者の皆様からは、今年一年間多大なご協力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

ぶつちぎり

特別企画委員長

3年 蜷川 友磨

今年の畜友会は、ぶつちぎっていた。去年まで二人だったのに対し今年五人で出来たのでぶつちぎりの内容の企画を考えることができたと思う。

最初、特別企画のみんなで集まったとき、誰かがいないとか、時間通りに集まらないだとか、根本からみんなで何かをするのは難しいことなんだなと思った。そこで僕はみんなに、「誰もがおどろく、ぶつちぎりの企画を作ろう」と熱く語ったとき、みんな協力してくれるようになったと思う。

作業に入ると、個人の想いの強い特別企画は「これはもつとこうしたほうがいい」だとか、「これはやめましょう」とかそういうことが多くて大変でした。時にぶつかりあうこともあり、僕はそれを止めるために「ぶつちぎっていいこうぜ」としか言うことができず、うまくおさめられなくて、後輩にはすごく迷惑をかけた。しかし、楽しく作業することはできたように思う。

当日は、あいにくの雨、というかぶつちぎりの台風。せっかく立ててきた計画も、ぶつちぎられてしまい、すごく残念な結果になった。僕自身としては、もっと先輩としてぶつちぎって後輩を引っ張っていったらよかったと思う。自分

自身が知らないことや行動できないことが多すぎて、あともう一年あったらなんと悔やんでいます。そこをしつかりできていけば、台風でももつとしっかりと企画にできたんじゃないかなと思いました。でも、悔やんでももう遅いですが……。しかし、ずっとやってきてくれた後輩は、僕なんかよりすごく考えることができる後輩なので、来年は僕じゃ思いつかないぶつとんだ企画を考えてくれることに期待しています。

来年の企画楽しみだ！



我ら畜産学科統一本部宣伝隊!

宣伝隊長

3年 嶋田 翔太

2009年、収穫祭、体育祭も終わり自分たちの時代がやってきた。隊長法被を渡された時、やってやるぜ!という前向きな気持ちと、俺か!という不安な気持ちがいっぺんにやってきた。そんな気持ちを尻目に十一月中旬、来年度の予算会議が休む間もなく始まった。

第十回収穫祭最後の参与会議も終わり、とうとう偉大な3年生が抜け、新3年生だけになり、ついていく立場から宣伝隊を引っ張っていく立場になりました。

春が来て新宣伝隊花見で三学科の初顔合わせをし、四月からは毎週水曜日の宣伝会議に折り返し研究室、授業、バイトと忙しくなりました。去年は三年になったら授業も落ち着いて宣伝活動に専念出来ると思っていたのですが、現実には厳しいものでした。

そんな忙しさにも新宣伝隊員にも慣れ親しんできた夏、去年も参加したDANBEフェスティバルを皮切りに、宣伝活動が本格的に始まりました。また今年は参加する祭りも一つ増やし、去年に勝る忙しさに見舞われました。

九月、とうとう少し早い宣伝隊収穫祭シーズンがやってきました。私達の第二の家とも言えるプレハブが建ち、ピラ作りや店回り宣伝活動、各駅宣伝活動、などの宣伝活動に並び事前前会議、事前会議と皆でんやわんやになりながら



活動しました。この時期になると忙しくなりイライラが募り、宣伝隊の事でぶつかり合う事が多くなりました。しかし今思うと、ぶつかり合ったことで信頼をより深められたのだと思います。

宣伝活動も大詰めになり、SATY前宣伝活動や伊勢原畜産祭り、一度中止になり統一本部の皆にも迷惑をかけた厚木パレードも無事に行う事ができ本当に歓喜の思いでした。本祭当日は一日目台風という初めての事に一度は中止を考えた野菜無料配布も、周りの力を借り、講義棟で行うという異例の野菜無料配布を無事成功させました。二日目の野前日が嘘だったかのようには晴れ渡り無事に収穫祭を締めくくる事が出来ました。一緒に手伝ってくれた畜統のみんなには本当に感謝しています。

終わってみると宣伝隊での二年間はほんの一瞬でした。辛いこともあり、辛いこともあり、また時には辛いこともある宣伝隊。今では本当にクソ楽しかったと思えるのは、去年の先輩や一昨年の先輩、そして一緒に頑張って悲しみ、そして笑いあえる仲間がそこにあつたからだと思います。悠本当に二年間、いや三年間ありがとうございました。

今年も二日間あつたらきつと、きつと五万人の目標に届いていたと思うのは自分だけでしょか。だから来年は実際五万人を肌で感じられるように!言いたいことは言い合せて、やり残しが無いように、自分たちに正直に行つて下さい!片山、堀内、郡山、薫、いつでも俺らがそばにいるからな!!

最後になりましたが、第十一回厚木キャンパス収穫祭宣伝隊本部を支えてくれた参与の先生方をはじめとする諸先生方、並びに収穫祭実行本部の皆様、第十一回厚木キャンパス収穫祭を無事に終わる事ができましたことをこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

「粹」畜産の顔：神輿

神輿隊長

3年 福田 庄司

まず、神輿は、収穫祭を宣伝し、来場者数を増やすため、学科を盛り上げるため、そして、畜産学科の存在を外部に知らしめるため作製している。

去年畜産学科は60周年を迎え今年61年目つまり還暦を迎えた。新たな畜産学科を見せるべく、作業を開始した。

去年の神輿は、5円玉を用いて鳳凰と屋根を黄金に染めた。とてもインパクトの強い神輿だった。今年の神輿を作る際、いかに畜産らしさをみせ、大きなインパクトを与えるか悩んだ。

悩みながらの作業開始、部分ごとに徐々に作っていた。去年、教わりながら作っていたが、今年は、隊長として作らなければならず、何より後輩(晋介、知里)がいて、教えながらの作業だった。ここで、教える大変さを感じた。けど、夏休みからの作業統一のどの部門より最初に始まるからこそ楽しく和気藹々とやれるように、と進めてきた。そして、なにより神輿メンバーみんなの手で最高の畜産の神輿をつくりたい。その気持ちで乗り越えてきた。今年の神輿は、畜産学科らしく「牛」を神輿のてっぺんに、壁画3面を「牛」、「豚」、「鳥」に、正面の壁画には学科シンボルを用いたものをうまく取り入れ設計した。頭の中

で考えることはできても、物をうまく作り上げることは大変なこと。でも、そのあたりを、うまくインパクトを与えてくれるように作ってくれたメンバーがいてくれて何よりだった。

10月の「厚木パレード」神輿のお披露目、自分らの作った神輿を統一メンバーで練り歩ける一大イベント。夏からこの日を目指してやってきた。9月の後半からの追い込みは、肉体的、精神的にボロボロになっていた。けど、神輿小屋に仲間が



いてくれて、来てくれて、だんだん出来上がっていく神輿に驚いてくれて、第三者としてのアドバイスくれた。だからこそやり遂げられたと思つて。そして、自分らの満足いく、みんなに認められた今年の神輿ができた。また、農学科、バイオセラピー学科の作る神輿にも、刺激を与えられた。特に、農学科は、作業場が正面同士、相談したり、助け合つて、刺激あつて、良きライバルといえた。

今年も、天気は左右された収穫祭だった。厚木パレードは予定日に雨のため順延。そして参加団体が少なく寂しさを残した。厚木キャンパス収穫祭においては台風直撃という事態に陥った。今回の収穫祭中には、宣伝隊と協力して厚木キャンパス収穫祭第一回の「神輿の一般投票」を行った。しかし、天候の影響や、問題点がいくつかあり、来年度以降に改善してもらいたい。

体育祭は、世田谷キャンパスで行われる。神輿も厚木から、世田谷へ。

体育祭中、世田谷、厚木16学科の神輿の審査が行われる。いわば、神輿の集大成である。畜産は体育祭、櫓で表彰された。神輿も!! という気持ちがあつた。表彰は、後夜祭の中でされる。それまで、不安、焦り、緊張が入り混じって落ち着きが無かつた。

畜産の神輿は、見事最優秀神輿を獲得することができた。奇跡とは、本当に起きると思つてなかつた。今年も、最優秀の神輿が2つあるということ、ライバルでもあり、一緒にやってきた農学科と堂々と獲得できたこと、神輿の審査規格が厳しくなつたことで失格した団体が出たこと。さまざまな要因があつた。しかし、最優秀神輿を取つたという事実は、第119回収穫祭・体育祭の歴史に刻まれる。

最後に、晋介、知里2人は、最後まで付き合つて神輿作りを携わってくれてありがとう。ちゃんと伝えられたか不安だけど、きつと来年は今年以上の神輿を作つて単独で連覇してくれと思う。厚木の投票でも、てっぺんを、由希恵、絵美ちゃん、3ヶ月ありがとう。ダメな部分が多かつたと思ふけど、最後の終わり方は最高だった。そして、一般投票開催に協力してくれた宣伝隊の皆諸先生方、来年度もよろしく願います。統一のみんなには神輿の上に立たせてもらった。なんとも言えない気分になった。本当にありがとうございました。

私を支えてくれた皆さんへ

体育祭委員長

3年 鈴木 麻琴

委員長最後の仕事であるこのふじみの作成に、私は長い時間をかけてしまいました。畜統で過ごした3年間の思い出がたくさんあり過ぎて何を書いたらいいのか、こんなに悩んだことはありません。かおるちゃん、遅くなって本当にごめんなさい。

大学に入学し、部活やサークルにも入らず、ただ何となく毎日を送っていました。せっかくの大学生活楽しまなきゃと思っていました時、畜統に出会いました。厚パレ・収穫祭・体育祭に参加し、和気あいあいとした雰囲気と真剣に取り組む先輩たちを見て、畜統に入る事を決めました。体育祭は第一希望の部門ではなかったけれど、今となれば体育祭に入って本当に良かったと思います。

2年生になって本格的に活動が始まりました。衣装作りやダンス練習で毎日夜中まで、気づけばもう朝！ということもしょっちゅうで、更に本番が近付くと朝練・昼練も始まり、夢の中でも踊っていた、私の頭は体育祭でいっぱいでした。それでも辛い顔一つ見せない晴香先輩と悠喜先輩の小さな背中が、とても大きく見えました。交代式で法被を渡された時は、私に委員長が務まるのかと不安で涙が止まりませんでした。

3年生になり、相方のけみちゃんと、可愛い2年生が入り5人になりました。テーマ決め・衣装作り・曲編集・振り付け・ダンス練習・競技者集め・世田谷会議：やるが多すぎてパンク寸前、更に「去年は準優勝だったから、今年は優勝だね」と悪気



のないプレッシャーで弱気にもなりました。そんな時私を支えてくれたのは畜統の皆です。ダンス練習では、皆それぞれ作業があるというのに、積極的に参加してくれて、スパルタな指導にもついて来てくれました。残念ながら当日は盲腸で出れない人もいましたが、代表の踊りも3年生全員で踊る事ができました。本番直前まで手つかずの状態であった「竜」も、皆がいなければ完成する事はありませんでした。竜係りの2年生も最後まで投げ出さず、カッコ良く振り回してくれました。本番当日も、ワックスが足りない！腕のペイントが間に合わない！口紅ぬり忘れた！「先生頑張って♡」の先生が一人足りない！怪我人が出た！とハプニング続出でしたが、応援合戦では今まで一番楽しく踊ることができ、何とか全てを無事に終える事ができました。結果は、最優秀神輿、櫓1位、応援合戦3位、総合優勝。表彰式で畜産学科の名前が呼ばれるたびに私達は荒れ狂ったように叫び、涙を流しながら抱き合いました。

畜産学科を最後まで信じてくれた先生方、無理言って競技に参加してくださった学生の皆さん、疲れ切った私に優しい言葉をかけてくれた畜9・利用研の皆さん、どんな時も温かく見守ってくださった先輩方、まことさんと慕ってくれた可愛い1年生、ノリが良くて私の元気の源でもあった2年生、ものすごく頼りになって1年生の頃には考えられないくらいの結束力を持った3年生、最後までサポートする事が出来なかったのが一番の心残りだけれども私を癒してくれたはるかちゃん、踊りが見とれる程上手くてしつかり者のまやちゃん、人一倍頑張り屋さんで本当に頑張り屋さんのまほちゃん、そしていつも周りをを見ていて、皆の事を第一に考えて、妥協せず、私の背中を押し続けてくれたけみちゃん。けみちゃんには何度救われたか：相方がけみちゃんまで本当に良かったよ。

畜統で過ごした3年間と出会った仲間は、私にとってかけがえない宝物です。私を支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

こだわりの櫓

櫓装飾委員長

3年 邑上 沙瑠子

終わったあゝ!!!
そう思えたのは体育祭の閉会式、櫓装飾の部の表彰で畜産学科が呼ばれた時。3位2位で他学科の名前があまり私は手が震えるほど不安と緊張に押しつぶされていた。

昨年度の「自己満・絶対に妥協しない・最高に気持ち悪いを目指す」に加え「みんなが誇りに思える櫓を作る」をモットーに櫓女四人で例年より早く向かえたシーズン。

今年も仕掛けだ！と決めてはいたものの、畜産学科では三年ぶりとなる仕掛けのため私たち全員初めての挑戦だった。

今年も絵パネ、文字パネ共に手書き。字は同期の梅村さんが字体を調べ何十枚も書いてくれたものから厳選、色は同じく同期の坂井さんが世田谷のグラウンドでも映えるように、絵と一体になるようにと考えてくれた。見えないところもこだわりたいという私のわがままも聞いてくれて、2年の小林さんが本番は隠れる所の絵も3年生顔負けの色調と斬新な組み合わせで他の作業と並行してくれた。

絵パネの仕掛けは、絵を二枚用意し入れ替えることになった。



「天国と地獄みたいにガラッと変わる絵がいい。」

と、言われたが私の画力が足りず、デザイン自体は似た出来になってしまった。しかし、絵パネに色が入りだして中盤、みんなが奇抜な配色と抜群のセンスで細かい手直しをしてくれ想像を超えるパネルとなった。

もちろん全てが順調にはいかず、昨年の倍量の絵を描く為連日の終夜作業が続く、頼りすぎてみんなを追いつめ、自分の度量の無さに腹が立つこともしばしばあった。

実際私が作ったところはほんの一部で、後半前やぐらマンのポストを真似ての私一人の作業も難航、櫓女・統一委員長の和馬を含めたくさんの人に心配かけた。

搬入後も毎日のように世田谷に通い、作業は当日夕方までかかってしまった。

そんなこんなで手にした11年ぶりの一位。私たちの代でこの成績を残せたこと、先輩たちにいい報告が出来たこと、手伝ってくれた方々に結果を持ってお礼が出来たこと、全部が本当に嬉しかった。

こんな私でも、委員長と認め支えてくれたみんなには感謝してもきれない。

本当にありがとうございました!!

最後に、うめ！友紀！本番にお疲れ！めっちゃ楽しかった!!失礼してごめん!!!

由音！次は任せた！仲間と最高に楽しいシーズンにしてくれ!

「今年の櫓はどうでしたか？」

サイツツッコーに気持ち悪かったでしょ?」

装飾という部門（猪牛蝶大根！）

装飾委員長

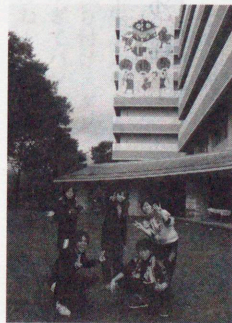
3年 菊地 忍

思えば一年前。約二カ月前、毎日毎日ミシンをカタカタ走らせ、徹夜で下書きをして、ペンキを塗って、やっと完成した素晴らしいデザインが二枚、真っ青な秋の空に堂々と掲げられた光景は、今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。そんな感動を味わったのは大学二年生の時でした。

そうしてみんなで一生懸命作った垂れ幕も、去年は毎年この時期訪れる台風の影響で、設置して三日と経たないうちに破れてしまいました。私は悔しくて悔しくて、どうしたら風に負けない垂れ幕を作ることができるか、去年の収穫祭が終わってから今年の垂れ幕が完成するまで、ずっとそのことを考えていました。去年と布の厚さを変え、垂れ幕の構造を変える事にしたのは良いものの、なにせ大きな作品ですから、あれこれ考えても本当にそれが最善の案なのかかわからず、制作の最中も私の心は常に不安でいっぱいでした。

今年の結果としては、デザインに関しては満足いくものを描くことができたのですが、垂れ幕は3枚のうち一枚は完全に破れてしまいました。それでも去年よりもずっと長く飾ることができ、大成功ではないけれど、一歩前進できたと言える出来だったと思います。また今年はパネルの設置も行い、一層学内を賑やかにすることもできました。

装飾という部門は、最初はただひたすらミシン地獄だし、絵が大きすぎて下書きすら1日ばかり。色塗りも少しずつしか進まないし、本当にしつこ



り縫えているかとか、絵はうまく描けているかとか、遠くからちゃんと見えるかとか、ほんとに全部の作業が終わって十一枚並べるまで全然完成が見えなくて、作業的には一番単調で地味な部門だと思えます。でも色塗りを終えて体育館に広げた瞬間、そして研究棟の壁一面に掲げられた絵を目にした瞬間、何とも言えない達成感が、胸いっぱいに込み上げてくるのです。私たちが作ったこの絵が、研究棟の屋上から一望できる厚木の町からも同じように見えているんだ！と思つたら、茶畑から一人でバカみたいに何十分でも眺めてしまおうくらい、どうしようもなく感動してしまうのです。装飾という部門は、作業が一番地味かもしれないけれど、でも一番でつかけて、一番ド派手なスゴいものを作れる部門なんです！装飾はどんな作品を作っても櫓や神輿や体育祭みたいに順位はつかないけれど、みんなが言ってくれる「すごい！」の一言一言が本当に嬉しくて、そのたびに私は装飾に入って良かったと、心からそう思います。

助言をくださった顧問の先生、総務課の山本さん、そして一緒にいるといつも笑いが絶えなくて、自分の作業の合間や時には作業の手を休めて装飾を手伝ってくれた統一のみんな、飾った絵を見て賛辞をくれた友達や先輩、後輩、先生方……装飾を、そして私を支えてくれたたくさんの方がいたから、大満足の素晴らしい作品を作ることができました。本当にありがとうございました！最後に、ゆーりちゃん、つね！お疲れ！完成までには色んなハ

プニングもあつたね（笑）全部楽しい思い出です！作った作品にはそれぞれの個性が出ていて、すごく良い作品でした！二人と一緒に装飾やれて、ほんとーに楽しかった！！鈴木くん、阿久津くん！頼りない委員長だったけど、こんな私に最後までついてきてくれてありがとう。二人の頑張りには何度も救われました！新しく入る一年生と、来年も頑張れ！二人の作品を楽しみに待ってるよ！！

新家畜苑

家畜苑委員長（苑長）

3年 畠山 正太

春に発症した口蹄疫の影響で、今年の家畜苑は「やるか」「やらないか」という究極な選択から始まりました。去年、妥協を許さずやった三年は「中途半端にやるならやりたくない」と言い、来年のため仕事を覚えるため「何としてもやりたい」と言う二年……自分の意思をうまく伝えられず出だしから迷惑をかけたのですが、「最後の年、苑長としての年に何もしないのは嫌だ」という意志を三年に伝え、今年も家畜苑をやる方を選びました。

しかし、毎年富士農場から借りていた家畜が今年も借りられない……「どうしよう？」とみんなに相談したところ「俺ん家から持つてこようか？」（笑）「外部から借りよう！」と、軽く考えて先生を再び訪ねたところ即却下され、「今年も家畜苑に変えたら？」と言われました。正直イラッとして「こんな風に言われるくらいならやりたくない！」と、考えるようになり、だ、家畜苑のメンバーの支えもあり、挫けることなく先生への訪問を続けられました。その結果、(株)福田牧場より、牛と羊を各二頭と、ヤギとミニブタを各一頭ずつお借りでき、小さいながらも家畜苑を行える準備が出来ました。更に、何かイベントをやりたいというところで、バター作り体験も行うことにしました。（はっ



きり言ってバター作り体験をやることになるまで、先生と総務部への行き来は非常に大変でした。企画書、通知文、会計報告……なかなか通らなくて大変でした（笑）。収穫祭は台風の影響で1日のみの開催となりましたが、それまでの準備に関しては、自分以外の3年が頑張ってくれました。毎日朝まで説明文やプラバンのような小物を担当したよっちゃん！顔に似合わず器用で本当に助かりました。そして、清隆！顧問の先生や家畜苑のメンバーをバックボードに丁寧に書いてくれました。また、畜友会の盛り上げ役として睡眠不足を忘れるほど笑わせてもらいました。あとは、糟谷！時間が無い上に白紙の状態から、バター作り体験の講義文を作ってくれました。真面目で助かりました。最後に、拓巳！手下を何人も引き連れ、楽しく鳥小屋や柵、木製ホルスタインの色塗り……たくさんやってくれたにも関わらず収穫祭前日に盲腸になってしまいました。本人が一番悔しかったと思いますが、苑長として最後に全員で終われなかったことは心残りです。

最後に、来年は、猪瀬新苑長のもっと純平、重、慎ちゃん、そして……耕平！あとは、新しく入ったメンバーと共に「楽しく！楽しく！そして、楽しく！」をモットーに、みんなで頑張ってください！家畜苑、そして畜友会のみんな……最高の思い出をありがとう!!!

編集後記

第47号目となる『ふじみの』を、今年も発行することができました。

第11回収穫祭は台風の影響で開催が危ぶまれ、1日目は午前中のみで開催となってしまいました。2日目には大勢の方に来客していただきました。野菜の無料配布や家畜苑も大盛況に終わり、より地域に密着した行事になってきたと感じました。

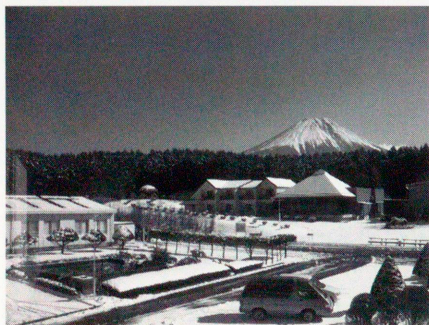
第119回体育祭においては、畜産学科が10年振りの総合優勝を受賞することができました。

今後も農学科・畜産学科・バイオセラピー学科が協力しあい共に切磋琢磨していくことを期待しています。

この「ふじみの第47号」が、今後の畜産学科の更なる発展を担うものになれば幸いです。

最後になりましたが、この一冊を発行するにあたり、お忙しい中御寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深く御礼申し上げます。

編集委員長 3年 菊地 忍



平成23年3月20日 発行	神奈川厚木市船子1737
“ふじみの”第47号	東京農業大学農学部畜産学科畜友会
発行所	電話 046(270)6220(総務課)
ふじみの執行委員 菊地 忍	東京都荒川区西尾久7-12-16
竹内 薫	印刷所 創文印刷工業株式会社
	電話 03(3893)0111

表紙写真提供：佐藤光夫先生

